一等賞　四名
小林鳥一　宮田秀夫　出田忠次郎　谷博三

二等賞　十六名
山本信男　吉上吉弘　足立勝巳　廣瀬豊　田淵金五郎　細川清　追田新次　堀部政之助　足立久次　中川利一　山本清次郎　桧木武雄　森井米次郎　堀田治男　鈴木捨治郎　谷本正雄

三等賞　四十名
藤林惟一　大野菊治　北川太三　富田進　田宮善次　加美一夫　竹中清義　宮本保　堂垣秀雄　高橋正治　前島太三郎　佐々木秀次郎　三上權三郎　千種喜三郎　野村松三郎　藤林明良　井上鐵次郎　北川年雄　稲野太八　志賀兼太郎　川尻亜太郎　猪飼直治郎　島井太吉　阪本長三郎　古川信三　藤原芳之助　岡崎正次郎　中島留雄　西川由三　櫻井清雄　末次喜一　小宮山順一　倉谷信雄　安藤新之助　澤田捨吉　野村清次郎　櫻鑑之助　岩井政治郎　西島義一　村田友次郎　荒木良二　佐倉登馬　孝治豊　杜若清次　河村正二郎　本城佐一　戸田春吉　戸田政之助　田村治三郎　高橋俊男　上田良一　和田常夫　中川喜七郎　田村文吉　阿閉義二郎　鈴木澄雄　櫻井松三郎　竹鳥初太郎　櫻井清雄　末次喜一　笹井健次郎　山本一雄　中野賢一　堀川善彌　古川堅三　塙河原菊一　中岡清太郎　西村末吉　八木加三郎　辻作藏　山本嘉藏　荒井竹次郎　金井義次　片岡鹿三郎　長宗末吉　内貴重次郎　船越治郎　大森孝之助　上田重二郎　晉島伊太郎　栗尾永一郎　島產一　岡本安雄　新井三郎　櫻井松三郎　竹鳥初太郎　櫻井清雄　末次喜一　伊藤優　秋田光一　高桑眞吉　辻野綱吉　小西佐七　二股俊夫　澤友三郎　中野與市　久瀬源二　西村喜一郎　大竹重男　小林三幸　大原幸雄　島一雄　三谷久三郎　服部武新　澤仁三郎　青西治三郎　西ケ塙將　西原竹二郎　青木藤吉　山崎信二　西堀茂七郎　空木喜一　力石元造　川下竹治郎　森政男　梅村德三　澤田幸一　鳥崎松次　大藪富造

## ◎浸落調整部徒弟競技會

六月十五日午前十一時式事擧行式順は調査部と同一にして府知事の臨席なかりし外來賓者も前會に同じ

審査報告

第二十六回浸落調整部徒弟競技會ニ於ケル出品點數ハ二百十二點トス其出品ハ修業年限ニ應シ甲乙ノ二級ニ別チ原圖ヲ眞ニセル圖廻ヲ與ヘタルニ基キ製作セシメタルモノニ付キ拔色工程調整方法ノ二點ニ重キヲ置キ精査ニ審査シタルニ秋レモ佳良ノ成績ヲ示セリ其中優良ト認ムルモノヲ擧ケラ褒賞セシモノ

一等賞　四名
二等賞　二十名
三等賞　三十二名
褒狀　七十二名

右ニ對シ授賞アラン事ヲ申請ス

昭和五年六月十五日

審査總長　淺井啓吉

## 告辭

京染カ今日ノ如ク斯界ノ覇者トシテ名聲ヲ博シタ居ル所以ハ染物ノ工程タル各部門ノ分業カ實ニ遺憾ナク發達シ其ノ技術カ常ニ時代ノ尖端ヲ行クカラデアルト信スルノデアリマス然シナカラ文化ハ時ノ流ト共ニ進化シツヽアリマスカラ嚴新ナル研究ト進歩シタル技術トハ斯業ニ於キマシテモ寸時ノ苟且ヲ許サナイノデアリマス即チ當組合ハ風ニ此點ニ留意シテ毎年各部ノ競技會ヲ開催シ優秀ナル技術ノ選奬ヲ行ハレ今又浸落調整部第二十六回徒弟競技會褒賞授與式ヲ擧行セラレンスコトハ本日連續ノ光榮ニ浴ナレタル諸君ハ不斷ノ研鑽ト努力トニ依ツテ此ノ榮譽ヲ得ラレタルモノデアリマシテ深ク敬意ヲ表スル次第デアリマス諸君ハ本日ノ成績ニ滿足スルコトナク更ニ一層ノ研究ヲ積ミ吾カ京染ノ聲價ノ發揚ノ爲ニ努力アラレンコトヲ切望シテ止マナイ次第デアリマス一言ヲ述ヘテ告辭ト致シマス

昭和五年六月十五日

京都市長　土岐嘉平

## 告辭

榮譽ト賞讃ニハ大ナル負擔ヲ伴フモノデアリマス古來京染カ受ケタ榮譽ニハ勿論本日ノ受賞者亦大ナル責任ノ伴フコトヲ自覺セネバナラナイノデアリマス浸落調整ノ技術ハ單ナル染物ノ一工程ニ過キナイノデアリマスカ此ノ技ノ巧拙ハ鮮麗ナル京染物ヲ完美セシムル上ニ至大ノ影響ヲ及ホスモノデアリマスカラ最モ技能ノ練熟ヲ要スルノデアリマス翼クハ本日受賞ノ諸氏將來益々賞讃ニ伴フ責任ノ重キヲ自覺シ技能向上ノ一路ニ精進シ斯業ノ隆昌發達ニ貢獻セラレンコトヲ切望シテ止マナイ次第デアリマス一言コレヲ以テ本日ノ告辭ト致シマス

昭和五年六月十五日

京都商工會議所
會頭　大澤德太郎

## 答辭

吾浸落調整部ニ於テハ年々競技會ヲ開カレ徒弟ノ技術奬勵ニ努メラル、コト本年ヲ以テ第二十六回ニ至リ先覺諸氏カ獨立自營ノ範ヲ示サル、モノ多キハ本業ノ爲メ慶賀スヘキノ至リトス吾等後進者ハ此意味ヲ体シ出品ヲ試ミタルニ幸ニ受賞ノ光榮ニ浴スルコトヲ得タルハ誠ニ喜ヒニ堪ヘサル處ナリ特ニ貴賓各位ノ御臨場ヲ辱フセシノミナラス懇篤ナル訓辭及賞金ヲ賜ハリ將來ヲ戒メラル茲ニ於テ吾等ハ今後一層奮勵シテ獨立自營ノ途ヲ立テ以テ本會ノ趣旨ヲ全フセンコトヲ誓フト謹シテ答辭トス

昭和五年六月十五日

受賞者　細川茂

受賞者氏名

一等賞　四名
福原茂　西田英三　伊藤與吉　杉浦貞雄

二等賞　二十名
井上兵一郎　山崎忠一郎　村上真一　吉田庄二郎　黒田藤三郎　木峰夫　田中留吉　田中政治郎　中井榮一　海田忠吉　茶園清一　巽治一　川端良夫　田中賢一　松本庄吉　桑田喜代松　中村安三郎　竹村次郎　岸逢次

三等賞　三十二名
安田末次郎　渡邊義一郎　田宮真太郎　畑設太郎　見越久吉　堂本孫一　橋本繁　服部五郎　松井順一　長谷川政一　田中正吉　上田良造　小倉吉　佐藤西　忠士　上正太郎　中村又次　甚吾　大西平　藤本太郎　藤井治男　藤本峰夫　藤井牽雄　藤本理平　藤本利一　藤井利一　藤井信　上川寅吉　上川武雄　清忠　山本德太郎　中川順憲　有川七三　羽倉利一　東原睦男　栗本平　村口利一　川邊寅信　上川武雄　勝木清忠　森伊之助　小島伊太郎　出口仁作　綾野秀七　辻井圭之助　高橋正次郎　岡崎正次郎　堂本義雄　稲川捨治　岡本清次　橋本磯之助　荒本直吉　增田政吉　和田岩次郎　渡邊清　宇野芳夫　藤井秀男　和田末吉　辻井良一　佐々木武一　加藤與作　小林太市　高橋正之助　津知康夫　中村一雄　上田義三郎　堺康治　山本吉鶴　山本利江　谷口義一　山本吉次郎　井上義次郎　加藤作三

京都染物同業組合月報

発行兼印刷人　京都府下鷹峰山麓　森本理一郎
印刷人　京都市柳馬場通竹屋町下ル　京都染物同業組合事務所
発行所　京都染物同業組合事務所
電話上一六七七番

© Kyozomekai

## 公示

### ◆公示第十二號

昭和六年度本組合經常費收支豫算並ニ賦課徴收法認可セラル此旨公示ス

昭和五年十二月廿五日

京都染物同業組合
組長　八木伊三郎

京都府指令五商第二二七四號

昭和五年十一月二十九日付第二六〇號申請昭和六年度經費豫算並ニ徴收方法ノ件認可ス

昭和五年十二月二日

京都府知事　岳上信一

昭和六年度京都染物同業組合經費收支豫算

### 收入ノ部

| 科目 | 本年度豫算額 | 前年度豫算額 |
|---|---|---|
| 第一款　賦課金 | | |
| 一項　賦課金 | 一、八〇〇、〇〇〇 | 一、八〇〇、〇〇〇 |
| 一目　等級割 | 一、六〇〇、〇〇〇 | 一、六〇〇、〇〇〇 |
| 二目　戸數割 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 第二款　雑收入 | | |
| 一項　雑收入 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 一目　證票料 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 二目　不用品賣却代 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 三目　廣告料 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 四目　雑收入 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第三款　過年度徴收金 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 一項　過年度徴收金 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 一目　過年度徴收金 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第四款　繰越金 | | |
| 一項　繰越金 | 一、九二〇、〇二〇 | 一、九二〇、〇二〇 |
| 一目　繰越金 | 一、九二〇、〇二〇 | 一、九二〇、〇二〇 |
| 合計金 | 一八、二四八、〇五〇 | 一八、二四八、〇五〇 |

### 支出ノ部

| 科目 | 本年度豫算額 | 決算額 |
|---|---|---|
| 第一款　事業費 | | |
| 一項　奬勵費 | 六、〇〇〇、〇〇〇 | 六、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一目　勤業奬勵費 | 四、〇〇〇、〇〇〇 | 三、四四一、〇〇〇 |
| 二目　技師給 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 九〇〇、〇〇〇 |
| 第二款　雑費 | | |
| 一項　雑費 | 一、九二〇、〇二〇 | 一、九二〇、〇二〇 |
| 一目　雑費 | 一、九二〇、〇二〇 | 一、九二〇、〇二〇 |
| 合計金 | 一八、二四八、〇五〇 | 一七、三四一、〇二〇 |

### 賦課徴收法

昭和六年度

第一條　組合經費ハ等級割、戸數割ノ二法ニ依リ徴收ス

第二條　組合經費ハ前年度ノ收益税、市税ノ納税額ヲ標準トシ賦課ス但シ納税額未確定ノモノハ前年度ノ組合等級ニ準擬ス

第三條　戸數割ハ一戸金貳拾錢トス

第四條　經費ハ便宜上年額ヲ四分シ一月、四月七月、十月ノ各三十日迄ニ徴收シ端數ヲ生スルトキハ第一期ノ徴收額ニ加フ

第五條　組合員ハ前條期限内ニ納付スヘク理由ナク期日内ニ納付セサルトキハ組合定款ノ規定ニ據リ處分ス

第六條　經費ハ本年中七月以前ニ加入スルモノハ一ケ年、七月以後ニ加入スルモノハ半ケ年ヲ課シ七月以前ニ廢業スルモノハ半ケ年、七月以降ニ廢業スルモノハ一ケ年分ヲ徴收シ開業ニ際シ其手續ヲナスト同時ニ全額ヲ徴收ス

第七條　新ニ開業セシモノヽ經費ハ組合等級割ノ最下位ノ額ヲ賦課シ同時ニ組合証票料金參拾錢ヲ徴收ス

第八條　賦課法ノ錯誤又ハ遺算アリト認メタルトキハ徴收通知書ヲ受ケタル日ヨリ一週間内ニ訂正ノ申込ヲナサヽルトキハ無効トス

### ◆公示第十三號

昭和四年度本組合經常費收支決算左ノ通リ組合代議員會ノ承認ヲ經タリ此旨公示ス

昭和五年十二月廿五日

京都染物同業組合
組長　八木伊三郎

昭和四年度京都染物同業組合經費收支決算

### 收入ノ部

| 科目 | 本年度豫算額 | 決算額 |
|---|---|---|
| 第一款　賦課金 | | |
| 一項　賦課金 | 一、八〇〇、〇〇〇 | 一、八〇〇、〇〇〇 |
| 一目　等級割 | 一、六〇〇、〇〇〇 | 一、六〇〇、〇〇〇 |
| 二目　戸數割 | 二、〇〇〇、〇〇〇 | 二、〇〇〇、〇〇〇 |
| 第二款　雑收入 | | |
| 一項　雑收入 | 三〇〇、〇〇〇 | 二、九〇〇、〇〇〇 |
| 一目　証票料 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 二目　不用品賣却代 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 三目　廣告料 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 四目　雑收入 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第三款　過年度徴收金 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 一項　過年度徴收金 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 一目　過年度徴收金 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第四款　繰越金 | | |
| 一項　繰越金 | 一、九二〇、〇二〇 | 一、九二〇、〇二〇 |
| 一目　繰越金 | 一、九二〇、〇二〇 | 一、九二〇、〇二〇 |
| 合計金 | 一八、二四八、〇五〇 | 一七、三四一、〇二〇 |

### 支出ノ部

| 科目 | 本年度豫算額 | 決算額 |
|---|---|---|
| 第一款　事業費 | | |
| 一項　奬勵費 | 六、〇〇〇、〇〇〇 | 六、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一目　勤業奬勵費 | 四、〇〇〇、〇〇〇 | 三、四四一、〇〇〇 |
| 二目　保護奬勵費 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 九〇〇、〇〇〇 |
| 二目　試驗場費 | 九二〇、〇〇〇 | 九二〇、〇〇〇 |
| 一目　技師給 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 三項　陳列場費 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 一目　修繕費 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 第二款　事務費 | 一〇、六二六、〇〇〇 | 九、九九一、〇〇〇 |
| 一項　給料 | 七、八八四、〇〇〇 | 七、二三四、〇〇〇 |
| 一目　所員給 | 七、八八四、〇〇〇 | 七、〇八〇、〇〇〇 |
| 二目　報酬 | 三〇〇、〇〇〇 | 二、一五〇、〇〇〇 |
| 二項　雑給費 | 八四一、〇〇〇 | 八二二、〇〇〇 |
| 一目　宿直費 | 一〇八、〇〇〇 | 一〇八、〇〇〇 |
| 二目　賞與費 | 六二〇、〇〇〇 | 六二四、〇〇〇 |
| 三目　旅費 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 三項　雷用費 | 一、九二四、〇〇〇 | 一、九二四、〇〇〇 |
| 一目　備付品費 | 一二〇、〇〇〇 | 一二〇、〇〇〇 |
| 二目　消耗品費 | 三三〇、〇〇〇 | 三三〇、〇〇〇 |
| 三目　點燈費 | 八〇〇、〇〇〇 | 八〇〇、〇〇〇 |
| 四目　月報費 | 三六〇、〇〇〇 | 三六〇、〇〇〇 |
| 五目　印刷費 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 六目　文具費 | 一二〇、〇〇〇 | 一二〇、〇〇〇 |
| 七目　通信費 | 二二〇、〇〇〇 | 二二〇、〇〇〇 |
| 八目　修繕費 | 一〇〇、〇〇〇 | 一〇〇、〇〇〇 |
| 九目　保險費 | 六〇、〇〇〇 | 六〇、〇〇〇 |
| 十目　雜費 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第三款　會議費 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 一項　會議費 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 一目　會議費 | 三〇〇、〇〇〇 | 三〇〇、〇〇〇 |
| 第四款　負擔金 | | |
| 一項　聯合會費 | 二〇〇、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇 |
| 一目　聯合會費 | 二〇〇、〇〇〇 | 二〇〇、〇〇〇 |
| 第五款　豫備費 | | |
| 一項　豫備費 | 一、四六〇、二四〇 | 一、二四〇、〇四〇 |
| 一目　豫備費 | 一、四六〇、二四〇 | 一、二四〇、〇四〇 |
| 合計金 | 一八、二四八、〇五〇 | 一七、三四一、〇二〇 |

### 賦課徴收法

昭和六年度

納税額等級戸數賦課率　金額　一戸負擔額

| | | | |
|---|---|---|---|
| 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一〇 | 三、三〇〇 | 九〇〇 |
| 四〇〇、〇〇〇 | 二 | 三〇〇 | 九〇〇 |
| 三〇〇、〇〇〇 | 三 | 二三〇 | 一、二三〇 |
| 二〇〇、〇〇〇 | 四 | 一、三〇〇 | 一、六三〇 |
| 一〇〇、〇〇〇 | 五 | 二、九〇〇 | 二、九〇〇 |
| 八〇、〇〇〇 | 六 | 二、三三〇 | 二、三三〇 |
| 六〇、〇〇〇 | 七 | 一、八八〇 | 一、八八〇 |
| 五〇、〇〇〇 | 八 | 一、四五〇 | 一、四五〇 |
| 四〇、〇〇〇 | 九 | 一、二三〇 | 一、二三〇 |
| 三〇、〇〇〇 | 一〇 | 一、〇二〇 | 一、〇二〇 |
| 二〇、〇〇〇 | 一一 | 八二〇 | 八二〇 |
| 一〇、〇〇〇 | 一二 | 六二〇 | 六二〇 |
| 八、〇〇〇 | 一三 | 四二〇 | 四二〇 |
| 六、〇〇〇 | 一四 | 二二〇 | 二二〇 |
| 四、〇〇〇 | 一五 | 一〇〇 | 一〇〇 |
| 三、〇〇〇 | 一六 | 八〇 | 八〇 |
| 二、〇〇〇 | 一七 | 六〇 | 六〇 |
| 一、〇〇〇 | 一八 | 四〇 | 四〇 |
| 七〇〇 | 一九 | 二〇 | 二〇 |
| 五〇〇 | 二〇 | 一〇 | 一〇 |
| 三〇〇 | 二一 | 八〇 | 八〇 |
| 二〇〇 | 二二 | 六〇 | 六〇 |
| 一〇〇 | 二三 | 四〇 | 四〇 |
| 六〇 | 二四 | 二〇 | 二〇 |
| 計 | | 三、四四一、〇二〇 | |



ヲ業務ニ部ノ財産ヲ保管ス

一、其他會議ニ提出スヘキ議案報告ノ調査

第二十二條　役員ノ選任ハ部員中ヨリ選擧ス役員ノ當選ハ投票ノ多數ニ因ル

但シ同數ナルトキハ年長者ヲ同年ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條　役員ノ定數ニ缺員ヲ生シタルトキハ直ニ補缺選擧ヲ行ヒ前任者ノ殘任期ヲ補充スルモノトス

第二十四條　役員ノ任期ハ滿二ヶ年トス

但シ役員ハ組合定款第四十條ノ理由アルニ非レハ辭任スルヲ得ス

第六章　會議ニ關スル規定

第二十五條　當部ハ重要ナル事項ヲ審議スル爲部會ヲ設置ス部會ハ部員十名毎ニ一名ノ割合ヲ以テヲ選出シタル代議員ヲ以テヲ組織ス

第二十六條　部會ノ權限ハ左ノ如シ

一、部ノ利害ニ關スル事項

一、違約處分ニ關スル調査事項

一、部經費收支豫算賦課徴收法並ニ決算財産目錄ノ認定

一、組合組長ノ諮詢其他必要ト認ムル事項

第二十七條　部會代議員二分ノ一以上又ハ部員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テヲ請求シタル事件ハ部議會ニ於テ之ヲ決ス

第二十八條　會議ノ招集ハ其ノ時日、目的、處所ヲ記シ三日以前ニ通知スヘシ

但シ緊急事件アルトキハ十二時間迄短縮スルコトヲ得

第二十九條　會議ハ代議員二分ノ一以上出席ナキトキハ開會スルヲ得ス決裁ハ出席代議員過半數ノ決議ニ依ル同數ナルトキハ議長ノ決スル處ニ據ル

第三十條　工賃最低價格標準實行ニ關スルコト及部規約ノ改正削除ハ總會ニ於テ之ヲ決ス

第三十一條　總會ハ毎年一月、七月兩期ニ之ヲ開キ部務ノ報告スヘシ

但シ緊急事項アルトキハ臨時之ヲ開クコトヲ得

第三十二條　會議ニ缺席セントスルトキハ開會時刻前ニ缺席屆ヲ部長ニ差出スコトヲ要ス

但シ臨時總會ノ場合缺席セントスル時ハ部員ニ委任シテ決議權ヲ行フコトヲ得

第三十三條　會議ハ議事錄ヲ製シ其ノ決裁事項又ハ證擧ノ節來出席者ノ氏名ヲ記錄シ代議員二名ノ之ニ署名シ保管スヘシ

第三十四條　決議事項ハ部長ヲシテ組合組長ニ報告シタル上ニテ實行スルヲ得ス

第三十五條　部員代議員ノ資格任期及補缺ニ關スル事項ハ部會ノ決議ニ依ル

第三十六條　會計ニ關スル規程

第三十七條　部員ニシテ左ニ掲ケタル行爲アリタル者ハ貳百圓以下ノ違約金ヲ科ス

一、工賃最低價格標準ニ違背シタルモノ

一、取引停止ノ公示ヲ受ケタル注文主ニシテ新タニ同種ノ注文ヲ受ケタルモノ

一、取引停止ノモノ代金ヲ支拂ヒ又ハ之ト示談シタルトキ直ニ取消ヲナサヽルモノ

一、注文主ニ對シ取引方法ヲ一定セサルモノ

一、不正行爲ヲ以テヲ部員ノ信用ヲ害シ又ハ部員ノ取引セル注文主ヨリ新タニ注文ヲ受ケタルモノ

一、部員ノ發明創始ニ係ル營業上ノ標號ヲ其ノ許諾ナクシテ使用シタルモノ

一、部員カ登記及公示ヲ受ケ傭使中ノ職工徒弟ヲ傭使シタルモノ

一、停止又ハ禁止ノ公示ヲ受ケ未タ解除セラレサル職工徒弟ヲ傭使シタルモノ

第三十八條　部員ニシテ左ニ掲ケタル行爲アルモノハ貳拾圓以下ノ違約金ヲ科ス

一、正當ノ理由ナク役員委員又ハ其ノ命ヲ受タル職員ノ調査事項ニ係ル臨檢ヲ拒ミタルモノ

一、京都染物同業組合ノ証票ヲ携帶セサル職工ト雇傭契約ヲナシタルモノ

一、不正行爲ヲ以テヲ職工又ハ徒弟ノ登記ヲ受ケ又ハ其情ヲ知リテ之ヲ傭使シタルモノ

一、期限中ノ職工徒弟ニ正當ノ理由ナク相當ノ給料ヲナサヽルモノ

一、就業中疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ被リタル職工及徒弟ニ對シ治療ヲナサシメサルモノ

第三十九條　部員ニシテ左ニ掲ケタル行爲アリタルモノハ拾圓以下ノ違約金ヲ科ス

一、正當ノ理由ナク部長ノ召喚ニ應セサルモノ

一、職工及徒弟ヲ傭使シ登記ヲ受ケサルモノ及之ヲ解約シ登記取消ヲナサヽルモノ

一、登記要件ノ變更ヲ生シタルトキ其手續ヲナサヽルモノ

第四十條　前條ノ違約者アルトキハ部長ハ部會ヲ召集シ其ノ事實ヲ調査シ處分法ヲ決定シ其執行ヲ組合組長ニ申請スヘシ

但シ前項違反事項ニ對シ處分決定書ノ謄本ヲ受ケタル部員ハ不服ノ申立ヲナスヲ得ス

第七章　會計ニ關スル規程

第三十六條　會計ニ關スル規定ハ京都染物同業組合定款ノ規定ヲ準用ス

第八章　違約者處分法

第三十七條　部員ニシテ左ニ掲ケタル行爲アリタル者ハ貳百圓以下ノ違約金ヲ科ス

一、工賃最低價格標準ニ違背シタルモノ

一、取引停止ノ公示ヲ受ケタル注文主ニシテ新タニ同種ノ注文ヲ受ケタルモノ

一、取引停止ノモノ代金ヲ支拂ヒ又ハ之ト示談シタルトキ直ニ取消ヲナサヽルモノ

一、注文主ニ對シ取引方法ヲ一定セサルモノ

一、不正行爲ヲ以テヲ部員ノ信用ヲ害シ又ハ部員ノ取引セル注文主ヨリ新タニ注文ヲ受ケタルモノ

一、部員ノ發明創始ニ係ル營業上ノ標號ヲ其ノ許諾ナクシテ使用シタルモノ

一、部員カ登記及公示ヲ受ケ傭使中ノ職工徒弟ヲ傭使シタルモノ

一、停止又ハ禁止ノ公示ヲ受ケ未タ解除セラレサル職工徒弟ヲ傭使シタルモノ

第三十八條　部員ニシテ左ニ掲ケタル行爲アルモノハ貳拾圓以下ノ違約金ヲ科ス

一、正當ノ理由ナク役員委員又ハ其ノ命ヲ受タル職員ノ調査事項ニ係ル臨檢ヲ拒ミタルモノ

一、京都染物同業組合ノ証票ヲ携帶セサル職工ト雇傭契約ヲナシタルモノ

一、不正行爲ヲ以テヲ職工又ハ徒弟ノ登記ヲ受ケ又ハ其情ヲ知リテ之ヲ傭使シタルモノ

一、期限中ノ職工徒弟ニ正當ノ理由ナク相當ノ給料ヲナサヽルモノ

一、就業中疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ被リタル職工及徒弟ニ對シ治療ヲナサシメサルモノ

第三十九條　部員ニシテ左ニ掲ケタル行爲アリタルモノハ拾圓以下ノ違約金ヲ科ス

一、正當ノ理由ナク部長ノ召喚ニ應セサルモノ

一、職工及徒弟ヲ傭使シ登記ヲ受ケサルモノ及之ヲ解約シ登記取消ヲナサヽルモノ

一、登記要件ノ變更ヲ生シタルトキ其手續ヲ

形紙ノ御注文ハ谷寺へ

•品質優良價額低廉•

| 品目 | |
|---|---|
| 五丁判 | 二枚付帳口 |
| 六丁判 | 五丁風通判 |
| 八丁判 | 六丁風通判 |
| 六丁判 | 八丁風通判 |
| 八丁判 | |
| 長九丁判 | |
| モス九丁判 | |
| 十丁判 | |
| 十二丁判 | |
| 二尺五寸角 | |
| 三尺角 | |

形彫用具及糊置用具一式

•多少ニ拘ラズ御用命ヲ乞フ•

•カタログ進呈•御報參上•

薄利現金主義

寺谷形紙店

京都市蛸薬師通猪熊西入

京都市河原町通二條上ル

柿澁製造卸問屋　澁新老舗

電話上二〇二一番
振替大阪一五五一〇番
製造場　府下鷹峰山麓

© Kyozomekai

二日 試驗原料費 一四〇、〇〇〇 一二六、〇二〇
三項 陳列場費 一四〇、〇〇〇 一〇六、〇〇〇
一日 修繕費 一四〇、〇〇〇 一〇六、〇〇〇
第二款 事務費 一〇、三九六、八〇〇 九、四三二、三八〇
一項 給料 四、四二〇、〇〇〇 四、〇二一、〇〇〇
一日 所員給 四、〇六〇、〇〇〇 六、九四二、〇〇〇
二日 報酬 三五〇、〇〇〇 三四〇、〇〇〇
二項 雜給費 八四五、〇〇〇 四〇六、〇〇〇
一日 宿直費 一〇九、〇〇〇 九四、〇〇〇
二日 賞與費 六四六、〇〇〇 三三二、〇〇〇
三日 旅費 一〇〇、〇〇〇 八一、〇〇〇
三項 雷用費 一、九四〇、〇〇〇 一、六二〇、八〇〇
一日 備付品費 一三〇、〇〇〇 一四〇、〇〇〇
二日 消耗費 二〇〇、〇〇〇 二〇〇、〇〇〇
三日 點燈費 八四〇、〇〇〇 三六〇、〇〇〇
四日 月報費 三五〇、〇〇〇 四四三、八〇〇
五日 印刷費 一四〇、〇〇〇 一四二、〇〇〇
六日 文具費 一二〇、〇〇〇 九四〇、四〇〇
七日 通信費 二四〇、〇〇〇 一四二、一二〇
八日 修繕費 一四〇、〇〇〇 一〇三、八〇〇
九日 保險費 六〇、〇〇〇 四三、〇〇〇
十日 雜費 二四〇、〇〇〇 二四六、〇二〇
第二款 會議費 三〇〇、〇〇〇 二九〇、八〇〇
一項 會議費 三〇〇、〇〇〇 二九〇、八〇〇
一日 會議費 三〇〇、〇〇〇 二九〇、八〇〇
第四款 負擔金 一〇四、〇二〇 一〇四、一二〇
一項 聯合會費 一〇四、〇二〇 一〇四、一二〇
一日 聯合會費 一〇四、〇二〇 一〇四、一二〇
第五款 豫備費 一二八、〇二〇、八九〇 一二、四九九、九八〇
一項 豫備費 一二八、〇二〇、八九〇 一二、四九九、九八〇
一日 豫備費 一二八、〇二〇、八九〇 一二、四九九、九八〇
合計 金 一八、二二〇、八九〇 一二、四九九、九八〇
差引現在殘 金 一二、九三二、二四〇
右殘金參千九百參拾貳圓貳拾七錢
內 金貳千五百圓 積立金
金壹千四百參拾貳圓貳拾七錢 積立金
昭和六年度へ繰込

◆公示第十四號

各部選出組合代議員任期滿了ニ付キ昭和六年一月中左ノ日割ニ據リ本組合事務所ニ於テ改選ヲ行フ此旨公示ス

昭和五年十二月廿五日
京都染物同業組合
組長 八木伊三郎

◆公示第十五號

左記ノ者雇傭契約ヲ締結シ登記ノ手續ヲ了シタリ此旨公示ス

昭和五年十二月廿五日
京都染物同業組合
組長 八木伊三郎

友仙染部員 水田勝太郎徒弟 野田岩夫
〃 〃 〃 折本宮一
〃 〃 〃 田中豊造 〃
〃 〃 〃 水谷房雄
〃 〃 〃 上田晃太郎 〃
〃 〃 〃 西一

昭和五年十二月廿五日
京都染物同業組合
組長 八木伊三郎

一友仙染部 代議員 五名 一月十二日
一模樣染部 〃 二名 〃 十三日
一茶染部 〃 二名 〃 十四日
一紅染部 〃 一名 〃
一絹帛諸色染部同 二名 〃 十五日
一引染部 〃 一名 〃 十六日
一藍染部 〃 一名 〃
一正紺染部 〃 一名 〃 十七日
一毛斯繪染部 〃 一名 〃
一小紋染部 〃 三名 〃 十九日
一中形染部 〃 一名 〃 二十日
一印シ染部 〃 一名 〃
一機械染部 〃 一名 〃
一糸絽色染部 〃 二名 〃 廿七日
一綵繪染部 〃 一名 〃 廿一日
一晒白部 〃 一名 〃
一張物部 〃 三名 〃 廿二日
一灰汁附部 〃 一名 〃
一御召再整部 〃 一名 〃
一縮布再敷部 〃 一名 〃
一湯熨斗部 〃 三名 〃 廿三日
一紋上書部 〃 二名 〃
一形彫部 〃 二名 〃 廿四日
一糊置部 〃 三名 〃
一洗色抜部 〃 一名 〃 廿六日
一浸落調整部 〃 三名 〃
一棟物部 〃 一名 〃 廿七日
一糸練部 〃 一名 〃

印染部員 小谷信太郎 〃
〃 〃 〃 浅田長男
友仙染部員西田 靜 〃
〃 〃 〃 岡田一雄
〃 〃 〃 神野正孝
〃 〃 〃 間所正治
〃 〃 〃 石田長雄
〃 〃 〃 山長豊
〃 〃 〃 横井一太
〃 〃 〃 横井武
〃 〃 〃 小林政義
〃 〃 〃 森川喜三郎
〃 〃 〃 山田元成
〃 〃 〃 近藤實
〃 〃 〃 渡邊進
〃 〃 〃 本間齊
〃 〃 〃 尾畑武雄
〃 〃 〃 尾畑末雄
〃 〃 〃 平田幸二郎
〃 〃 〃 中澤一男
〃 〃 〃 北村弘三
〃 〃 〃 中崎明
〃 〃 〃 鹽村勝治郎
〃 〃 〃 野島健太郎
〃 〃 〃 岩田貞寅
〃 〃 〃 志智忠雄
〃 〃 〃 吉田清造
〃 〃 〃 年田利六
〃 〃 〃 馬場利男
〃 〃 〃 江崎茂
〃 〃 〃 市村孟
〃 〃 〃 太田吉太郎
〃 〃 〃 岩田芳一
〃 〃 〃 藤田正雄
〃 〃 〃 大野勇
〃 〃 〃 福永信一
〃 〃 〃 小松正一
〃 〃 〃 小松正吉
〃 〃 〃 小松正夫
〃 〃 〃 竹口一男
〃 〃 〃 坂幸作
〃 〃 〃 南出伊太郎
〃 〃 〃 山川清治
〃 〃 〃 林正一
〃 〃 〃 勘一

小紋染部員渡邊源七 〃
引染部員 元木肇 〃
〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃

〃 3G
〃 オレンヂR
〃 ファスト ブラックB
〃 〃 エローR
〃 オレンヂGR
〃 ファストレッドバイオレットR
〃 ブルーB
〃 ブリ、アント エローFF
〃 ファスト ルービンB
〃 スカーレットB
〃 ト、馬獅子社發賣燐酸纖維素
人造絹糸用染料

セリトン染料と共にセラニース及セラニース交織物染色用として染色方法の簡易色合の鮮明日光に堅牢、他纖維を汚染しないこと等最も良好なものである。助剤としてはセリトン染料と同様に石鹸を使用するものである、次の様な染料がある。

ブルー エキストラ ベーフォーアセレート 〃
〃 ピンクR 〃 〃 〃 〃
〃 バイオレットB 〃 〃 〃 〃
〃 レッド 〃 〃 〃 〃
〃 バイオレット 〃 〃 〃 〃
〃 オレンヂ 〃 〃 〃 〃
〃 〃 エローRG 〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
〃 チ、セタシール染料

ガイギー社發賣のセタシール染料は何れも木綿及ヴイスコース人造絹糸を汚染するため交織物に於て鮮明な異色染を得ることは出來ない。染色方法は染浴一立中に一〇五瓦のゼラチンを添加し攝氏七十度で約十分間染色後更によく染料を吸收さす目的のためにセタシールソルトAを染浴一立に對〇五瓦加へて再び染色する。黒色にはゼラチン五瓦、セタシールソルト八五瓦を必要とする。染色後は一立中に二瓦の石鹸を含む液でソーピングを行ふ。次の様な染料である。

〃 セタシールブリ、アントスカーレットR
〃 〃 〃 〃 〃 〃 

## ◎機械貸下

商工省より左の通り照会し來たれり若し希望せらるゝ機械の貸下を望まるゝ方は申込まるべし

商工省ニ於テハ明治三十九年度以來工業奬勵ノ趣旨ヲ以テ毎年職員ヲ歐米ニ派シ新規機械ヲ購入シ之ヲ民間工場ニ貸下居候處昭和六年度ニ於テモ新規機械購入ノ豫定ニ有之趣ニ付テハ左記事項御含ミノ上貴部内當業者ノ希望ヲモ取纏メ其ノ機械名型錄、見込價格（運賃、關稅保險料其ノ他諸費ヲ含ム）製造品名製造所々在地及機械ノ概要等來ル二月十五日迄ニ回報相成度此段及照會候也

一、機械購入費豫算壱万八千八百圓（運賃其ノ他諸費共）ノ見込

二、本邦ニ於テ可成用途多キ新規ノ工業用機械（外國製ニ限ル）ニシテ從來ニ於ケル手工ニ代ハルモノ

新タナル工業ヲ起スモノ從來ノ機械ニ比シ著シク改良セラレタルモノ其他生產能率ヲ高メ又ハ製品ノ品質改善上有効ナル機械ニシテ未ダ本邦ニ輸入セラレ居ラズ其價額七、八千圓（運賃諸費共）ヲ超エザルモノナルコト

## ◎產業功勞者

當組合機械部日本工業株式會社長坂部三次氏は豫て其發明に係る特許「トレーシングクロス」が海軍省指定製造工場として寒鍛せられ又鐵道省に於て優良國產品に指定せられたるものなるが商工省に於ける優良國產の選定に當りサカブライト印「トレーシングクロス」ブラインド並にブッククロスが其推奬を受け總裁伏見宮博恭殿下より產業功勞者として表彰狀を受けられたるは獨り同氏の名譽のみにあらず京都染物同業組合の譽れなり即ち左の通り。

第七次產業貿易功勞者彰績錄

日本產業協會

各種クロース製造

京都府　坂部三次

氏ハ初ノ京都織物會社ニ入リ約二十年間勤續シ黑澤レタ染色整理部長ノ職ニ就ケルガ大正七年クロース工業ニ關スル會社設立ヲ企圖シ退社レ本邦ニ於ケル研究ニ從事セリ　同八年最初ノ株式會社ヲ創立シ爾來ノ經營ニ當リテハ日本クロス工業株式會社ヲ創立シテ專務取締役トナリ之ガ經營ノ任ニ當リ以テ今日ニ及ブ

同社ハ創業以來ブッククロース、トレーシングクロース、ブラインドクロース其他諸クロースヲ製造販賣シ輸入品ト對抗シテ優秀ナル成績ヲ收メ從來外國品ノミヲ使用セラレシ國定教科書ニ對シテ其製品ヲ使用セラル、ニ至リ斯界ノ賞讃ヲ博シ更ニ中等教科書及ビ參考書類ハ固ヨリ一般書籍帳簿用トシテ今ヤ全ク輸入品ヲ驅逐スルニ至レリ、トレーシングクロースニ於テモ海軍關係、鐵道關係官衙、八幡製鐵所、南滿鐵道其他民間諸會社等ニ廣ク需要セラル　ブラインドクロースモ亦輸入品ニ比シ其品質優秀ナルヲ誇リツヽアリ之ヲ要スルニ同社製品ノ優秀ナルコトハ特許及實用新案ノ數七件ニ達スルニ徵シテ明カナル所ニシテ其ノ斯業ノ發達ニ致セル功績蓋シ大ナルモノアリ而シテ同社ノ發展ハ一ニ同氏ノ獻身的努力ニ負フモノト謂フベク茲ニ錄シテ以テ他ノ龜鑑トナス所以ナリ

表彰狀

京都府

坂部三次

多年各種クロース製造業ニ從事シ剋苦勵精以テ克ク斯業ノ發展ニ資シ我カ國產業貿易上貢獻スル所秀カラス寔ニ他ノ龜鑑トスルニ足ル仍テ茲ニ其ノ功績ヲ表彰ス

昭和五年十二月十二日

日本產業協會總裁大勳位功四級博恭王

日本產業協會長正六位勳五等　梶原仲治

## ◎灰汁附法特許異議申立

紅染の準備加工として必須缺くべからざる灰汁附法に就ては京都に於ては古來の舊法に改良を加へ漸次面目を新たにしつゝある際當業者にあらざるものにて類似の方法の下に特許出願をなし既に公告せられたるを以て當組合は灰汁附部及紅染部の受くる影響に鑑み植村與三郎の名義を以て取り敢へず異議申立の手續をなしたり

特許異議申立書

京都市中京區油小路通夷川上ル

植村與三郎

京都市中京區寺町丸太町下ル

道場町九番地

代理人　辯理士　新實芳太郎

京都府愛宕郡修學院村大字高野

小學鐘突七番地

出願人　今井丑之助

東京市麹町區丸ノ内三丁目二番地

代理人　辯護士　中松盛雄

外二名

件名

一昭和四年特許願第一二五四一號（昭和五年特許出願公告第四七〇二號）ニ對スル特許異議申立事件

一定ノ申立

本件出願ハ特許スヘカラサルモノト御決定相成度候

理由

一、本件出願ハ硅酸曹達燐酸曹達及炭酸加里ノ混溶液ニ飴又ハ「グリコース」若クハ「グリスリン」ノ一種若クハ二種以上ヲ含有スル酸ヲ混シ硅酸ヲ「コロイド」溶液トナセル紅染用下漬劑ヲ要旨トナシ昭和四年十一月二十五日ノ出願昭和五年十一月二十六日ノ出願公告ニ係ルモノナリ

二、然ルニ空來俵ノ藁ヲ半焦シトナシタルモノニ適量ノ水ヲ加ヘ搾出シタル藁灰ノあく汁約一石五斗ニ對シ硅酸曹達二貫目弱位ト炭酸加里少量トヲ混溶シタル後之ニ水四斗ニ對シ「ボーメ」六十五度ノ硫酸約五合ト水飴約一貫目ノ割合ニ混合シタルモノヲ加ヘテ紅染用下漬劑ヲ作ルコト並ニ該下漬劑ヲ使用シテ練絹布ノ紅染用あく漬ヲ行フコトハ異議申立人經營ノ京都市中京區丸太町通堀川東入植村紅染工場ニ於テ大正三年頃ヨリ引續キ之ヲ實施シツヽアル所ナルト共ニ該下漬劑ノ製造及使用ノ事實ハ同業者其他ノ間ニ廣ク之ヲ知悉セラレツヽアリテ古クヨリ公知ニ屬スル所ナリ

（甲第一號證參照）

三、而シテ前記公知ノ下漬劑ニ於テ使用スル藁灰ノあく汁ハ硅酸ヲ主要成分トナシ且ツ鳴殷ハ含有スルコトハ極メテ顯著ナルモノ

ハ殆ント均等ノ資料ヨリ構成セラル、ト共ニ紅染用下漬劑トシテノ作用効果ハ全ク均等ニシテ目的ノ達成ニ於テモ兩者ハ何等ノ差異アルモノニ非サルヲ以テ本願ハ何等發明思想ヲ要セスシテ公知ノ事實ヨリ當業者カ容易ニ實施シ得ル程度ノモノニ過キサルト共ニ特許法第四條第一項ノ規定ニ從テ同法第一條ノ要件ヲ缺キ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノナリト相信ス

證據方法

一甲第一號證ハ京都染物同業組合ノ證明書ニシテ異議申立人ノ主張事實ニ公知ノ立證トシテ提出

右特許異議申立候也

昭和六年一月十七日

右　異議申立人植村與三郎

代理人　新實芳太郎

特許局長官　中松眞鄰殿

添附書類目錄

一委任狀　一通

一甲第一號證　一通

一副本　一通

證明願

京都市中京區油小路通夷川上ル

橋本町四百八十八番地

植村與三郎

右經營ニ係ル京都市中京區丸太町通堀川東入植村紅染工場ニ於テハ從來俵ノ藁ヲ半焦シトナシタルモノニ適量ノ水ヲ加ヘ搾出シタル藁灰ノあく汁ニ該あく汁石五斗ニ對シ硅酸曹達二貫目弱位ト炭酸加里少量トヲ混溶シタル後之ニ水四斗ニ對シ「ボーメ」六十五度ノ硫酸約五合ト水飴約一貫目ヲ混合シタルモノヲ加ヘテ下漬劑ヲ作リ之ヲ使用シテ練絹布ノ紅染用あく漬ヲ行フコトヲ大正三年頃ヨリ從來引續キ實施シツヽアルコトヲ御證明被下度此段相願候也

昭和六年一月十日

右　植村與三郎印

京都染物同業組合

組長　八木伊三郎殿

證明願ノ事實相違ナキコトヲ證明ス

昭和六年一月十二日

京都染物同業組合



## ◎讃色染部經費決算豫算

同部昭和五年度部經費決算及同六年度部經費豫算は去る二十一日部總會に於て何れも可決せられたり左の如し

昭和五年度讃色染部經費收支決算報告

收入ノ部

一金七百五拾九圓六拾六錢　出張入高

內譯

金參百九拾圓也　部經費

金參百四拾貳圓九拾四錢　前年度繰越金

金拾八圓七拾貳錢　雜收入

金八圓也　支出ノ部

一金七百五拾九圓六拾六錢　總支出高

內譯

金參百參拾五圓八拾錢　總會費

金參拾六圓六拾八錢　會議費

金貳拾壹圓拾五錢　通信費

金參拾六圓也　書記給

金四拾四圓五拾八錢　給費

金四拾壹圓也　慶弔費

金四圓貳拾五錢　諸用紙代

金貳百四拾圓貳拾錢　在高總會費準備金

右報告候也

昭和六年度讃色染部經費收支豫算

收入ノ部

一金六百參拾參圓貳拾錢　總收入高

內譯

金百圓也　部經費

金參百九拾參圓也　總會費準備金前年度繰越

金貳百四拾圓貳拾錢

支出ノ部

一金六百參拾參圓貳拾錢　總支出高

內譯

金四百圓也　總會費

金參拾七圓也　會議費

金貳拾五圓也　通信費

金參拾圓也　印刷費

金參拾六圓也　書記給

金參拾圓也　慶弔費

金四拾圓也　諸給費

右ノ通リ

昭和六年一月

小紋染部長　見玉勘六

賦課徵收法（年額）

一等　參圓　三十五戶

二等　貳圓　七拾戶　百四拾圓

三等　壹圓五拾錢　百卅二戶　百九拾八圓

計　二百卅七戶　四百四拾參圓

一、二、三等ノ區別ハ昭和六年度京都染物同業組合ノ等級ヲ標準トシ組合ノ十等以上ヲ本部ノ一等トシ十一等ヨリ十三等迄ヲ二等トシ十四等以下ヲ三等トシ年額ヲ四分シ概ネ二、五、八、十一月ノ四期ニ徵收ス

右ノ通リ

昭和六年一月

小紋染部長　見玉勘六

## ◎小紋染部經費決算豫算

同部昭和五年度部經費決算及同六年度部經費豫算は去る二十日部總會に於て何れも可決せられたりの如し

昭和五年度小紋染部經費收支決算報告

收入ノ部

一金五百貳拾七圓五拾壹錢　總收入高

內譯

金四百參拾五拾五錢　部經費

金五拾圓也　宣揚會ヨリ小紋展ヘ寄附

金貳拾參圓也　衣桁使用料金

金參拾九圓四拾錢　徵章代

金拾壹圓五拾六錢　前年度繰越金

支出ノ部

一金五百貳拾七圓五拾壹錢　總支出高

內譯

金八拾圓也　總會費

金百圓七拾錢　獎勵費

金五拾圓也　慶弔費

金六拾貳圓五拾錢　徵章二百五拾個代

金五拾參圓參拾九錢　通信費

金六拾圓也　書記給

金六拾圓五拾六錢　諸給費

金拾五圓五拾貳錢

右ノ通リ

賦課徵收法（年額）

金貳拾圓也　諸用紙傳品代

金拾五圓貳拾錢　雜費

右ノ通リ

賦課徵收法（年額）

金百八圓也　一等　參圓也　參拾六戶

金七拾貳圓五拾錢　二等　貳圓五拾錢　貳拾九戶

金百四拾貳圓也　三等　貳圓也　七拾一戶

金七拾圓五拾錢　四等　壹圓五拾錢　四拾七戶

計金參百九拾參圓也

一、二、三、四等ノ區別ハ昭和六年度京都染物同業組合ノ等級ヲ標準トシ組合ノ十一等以上ヲ當部ノ一等トシ十二、十三等ヲ二等トシ十四、十五等ヲ三等トシ十六、十七等ヲ四等トス

經費ハ上、下半期ノ二期ニ徵收ス

昭和六年一月

諸色染部長　田中常太郎

## ◎友仙部經費決算豫算

同部昭和五年度友仙部經費決算及同六年度の區經費豫算は去る十一日の總會に於て之を附議可決せらる

昭和五年度友仙區收支決算書

一金參千參百四拾壹圓四拾錢　收入總額

一金貳千六百拾貳圓貳拾壹錢　支出總額

收入支出差引殘高　七百貳拾九圓拾九錢

基本金貳千圓　國庫債券、農工債券各一通

收入ノ部內譯

金六百六拾四圓七拾四錢　前年度繰越金

金千八百參拾五圓貳拾錢　區費總額

金百〇九圓四拾六錢　基本金利子

金五百參拾貳圓　雜收入金

貳百圓　補助金

計金參千參百四拾壹圓四拾錢

支出ノ部內譯

金八百四拾圓　俸給

金參百五拾七圓八拾五錢　總會費

金貳拾五圓　慶弔費

金貳拾四圓九拾八錢　集會費

金四拾六圓貳拾貳錢　通信費

金四拾圓七錢　印刷費

金六百七拾參圓拾四錢　陳列會費

金參拾圓　退職賞金

金貳百圓　雜費

金參百七拾參圓九拾五錢　豫備費

計　貳千六百拾貳圓貳拾壹錢

昭和六年度收支豫算書

一金參千貳百貳拾貳圓貳拾參錢　收入金

一金參千貳百貳拾貳圓貳拾參錢　支出金

基本金貳千圓也　國庫債券、農工債券

收入ノ部內譯

金七百貳拾九圓拾九錢　前年度繰越金

金千九百八拾參圓參拾六錢　區費總額

金百〇九圓四拾六錢　基本金利子

金貳百圓　補助金

金貳百圓　雜收入

計金參千貳百貳拾貳圓貳拾參錢

支出ノ部內譯

金八百四拾圓　人件費

© Kyozomekai

金八百圓　総會費
金五拾圓　慶弔費
金百貳拾圓　集會費
金貳百四拾圓　通信費
金五百圓　陳列會費
金參拾圓　退職賞金
金五拾圓　印刷費
金貳百七拾貳圓貳拾參錢　雜費
金六拾圓　文具費
金百四拾圓　備附品費
金百貳拾圓　集金費
計金參千貳百貳拾貳圓貳拾參錢

## ◎大禮黑登錄權

下京區西洞院五條上ル堀健之助氏は其取扱加工品中の黑染に大禮黑の商標を附し出願の處既に許可を得られたるものなるが黑染業中には地方の注文に對し大禮黑の名稱を亂用し加工するものあるやの風聞に關し當組合に以降商標侵害の紛議を生ずるはお互の迷惑ゆへ豫め組合員に通告をなし不都合なき樣申込まれたり關係業者は此の商標を亂用するは勿論類似の商標を使用せざる樣注意ありて然るべし

## ◎新彩會陳列會

小紋染部の有志者の團体たる新彩會は本年度春着流行柄地色等の宣傳を主として率先して陳列會を催すことゝなり去る一月十四日八阪倶樂部に於て一般公衆の入場を許し其批評を求めたり陳列品は出品者の特技になりたるものとて何れも優秀品のみにて柄模樣の意匠の如きは時流を追ふて總て新らしく之に適合せる配色を施したるは進歩の實績を示すものとして京染のために喜ばしき事なり

## ◎組合理事招聘

久しく理事として就職せる西田復次郎氏は病氣のため近々退職せらるゝ筈にて其後任者として岡田和厚氏を聘する筈にて舊年十一月の評議員會に於て可決以來日々出務前任者の事務引繼中にあるが同氏は以前市の勸業課長として敏腕を奮はれ後ち奈良市の助役に聘せられて亦令名ありし人なるが任期と共に歸京せられたるを機とし當組合の招聘に應せられたる次第にて愈々入しく就職せる組合

## ◎ゴム液を防染糊として使用する染色法

下京區西洞院通四條上ル大澤忠太郎氏は先きに此種の發明をなし既に特許第八一八五九號を以て特許登錄を受けられたるものに改良法を加へられたるに過ぎざるも之に對しては新らしき權利を享有せられたるものとして同業者は注意せられたきものなり其明細書は左の如し

明　細　書

「ゴム」液ヲ防染糊トシテ使用スル染色法

發明ハ生「ゴム」ノ揮發油溶液ヲ防染糊トシテ可染布ニ筒引法ニヨリ任意ノ模樣ヲ糊置スル工程ト其表面又ハ裏面ヨリ糊置模樣ノ全体ニ亘リ揮發油一升ニ對シ約七匁位ノ少量ノ生「ゴム」ヲ溶解シタル揮發油ヲ霧吹スル工程ト次ニ浸染又ハ其他ノ方法ニヨリ染色スル工程ト之ヲ揮發油ニテ處理シ防染糊ヲ脫落セシムル各工程ノ結合ヲ特徴トスル「ゴム」液ヲ防染糊トシテ使用スル染色方法ニ係リ其目的トスルトコロハ極メテ纖細ナル模樣ヲモ裏面ニ亘リテ完全ニ防染シ純白ノ防染跡ヲ顯出セル優美艶麗ナル塗布ヲ容易ニ製出シ得ントスルニ在リ

發明ノ詳細ナル說明

本發明ハ生「ゴム」揮發油溶液ヲ防染糊トシテ可染布ニ筒引法ニヨリ任意ノ模樣ヲ糊置スル工程ト其ノ表面又ハ裏面ヨリ糊置模樣ノ全体ニ亘リ少量ノ生「ゴム」ヲ溶解シタル揮發油ヲ霧吹スル工程ト次ニ浸染又ハ其他ノ方法ニヨリ染色スル工程ト之ヲ揮發油ニテ處理シ防染糊ヲ脫落セシムル各工程ノ結合ヲ特徴トスル「ゴム」液ヲ防染糊トシテ使用スル染色方法ニ係ルモノニシテ之ヲ實施スルニハ先ツ

生「ゴム」　一二〇匁
アメゴム　四〇匁
ダンマルゴム　一五匁
揮發油　二升

ノ割合ニヨリ各資料ヲ混溶セル「ゴム」液ヲ作リ之ヲ防染糊トシ組布其他ノ任意ノ可染布ニ筒紙ヲ用ヒ筒引法ニヨリ任意ノ模樣ヲ糊置シタル後其全面又ハ裏面ヨリ糊置模樣ノ全面ニ亘リテ揮發油一升ニ對シ約七匁ノ少量ノ生「ゴム」液ヲ霧吹シテ

ノ「ゴム」ヲ含ム揮發油ヲ噴霧器ニヨリテ該糊置模樣ノ破壞ヲ生セサル程度ニ於テ薄ク霧吹シテ表裏ニ通シタル防染膜ヲ形成セシメ然ル後浸染其他ノ方法ニヨリ之ヲ染色シ次テ揮發油ニテ處理シ防染糊ヲ脫落セシメ防染跡ヲ顯出シテ之ヲ完成スルモノトス

生「ゴム」ヲ主要原料トスル「ゴム」液ヲ防染糊トシ筒引法ニヨリ模樣ヲ糊置スル防染法ニ於テ糊置後其儘直ニ浸染等ノ染色工程ヲ施ストキハ布面ニ對スル「ゴム」糊ノ固着不完全ニシテ單ニ布面ノ表面ノミニ防染膜ヲ形成スルニ過キサル爲ノ染液ノ浸滲又ハ裏面ノ染出ニヨリテ防染効ニハ幾分ノ着色ヲ呈シ純白ナル模樣ヲ生セシムルコトハ甚タ困難ナリ然ルニ本發明ニ於テハ「ゴム」液ヲ糊置シタル後糊置模樣部ノ全体ニ亘リ特ニ少量ノ生「ゴム」ヲ溶解セシメタル揮發油ヲ霧吹スルコトニヨリ印花「ゴム」糊ハ霧吹セル揮發油ニヨリ幾分溶解シテ布帛ノ纖維内ニ潛入吸着セラルルカ如キ作用ヲ生スルモノナルト共ニ該霧吸揮發油ハソレニ含有セラル「ゴム」ノ爲メニ印花「ゴム」ニ對スル結合ヲ一層迅速良好ナラシムルカ如キ特殊ノ作用ヲ生シ其結果印花糊模樣ハ裏面ニ於テ滲透シテ固定シ極メテ堅固ノ防染膜ヲ形成スルト共ニ防染作用ヲ布帛ノ裏面ニマテ及ホシ蒸熱ニヨリテモ何等侵サルルコトナク染色ニヨリテヨク表裏ニ脫ケ通リタル純白鮮明ナル防染跡ヲ顯出シ得ルモノニシテ特ニ本發明ハ纖細ナル模樣ノ表顯ニ極メテ好適ナルモノナリ

發明相互ノ關係

本發明ハ特許第八一八五九號ノ改良ニ係ルモノニシテ原發明ニ於テハ第二工程ニ於テ糊置模樣ノ全体ニ亘リ單ニ揮發油ヲ霧吹スルモノナルヲ本發明ニ於テハ特ニ少量ノ生「ゴム」ヲ溶解セシメタル揮發油ヲ霧吹セシメコレニヨリテ霧吹揮發油ノ印花「ゴム」糊ニ對スル結合作用ヲ一層良好ナラシメ夏季高溫等ノ際霧吹揮發油ノ作用不充分ナルヨリ生ズル不完全ノ虞ヲ避ケシメ仍テ以テ製品ヲ一層完全優良ナラシメントスルモノナリ

特許請求ノ範圍

本文記載ノ目的ニ於テ本文ニ詳記ノ如ク生「ゴム」揮發油溶液ヲ防染糊トシテ可染布ニ筒引法ニヨリ任意ノ模樣ヲ糊置スル工程ト其表面又ハ裏面ヨリ糊置模樣ノ全体ニ亘リ揮發油二升ニ對シ約七匁位ノ少量ノ生「ゴム」ヲ溶解シタル揮發油ヲ霧吹スル工程ト次ニ浸染又ハ其他ノ方法ニヨリ染色スル工程ト之ヲ揮發油ニテ處理シ防染糊ヲ脫落セシメタル各工程ノ結合ヲ特徴トスル「ゴム」液ヲ防染糊トシテ使用スル染色法

## ◎注意

當組合書記ト稱シ組合員ニ染加工ヲ依頼シナガラ其代金ヲ支拂ハス催促スレハ反テ激怒シ種々ノ難辯ヲ着ケ遂ニハ拂ヲナシ迷惑スル趣キ無名投書ヲ以テ申請セラルヽモ調査上困難ニ付以降ハ加害者ノ名義及被害者ノ名義ノ明記シタル書面ヲ以テ申告相成タシ

京都市河原町通二條上ル
柿澁製造問屋　澁新老舗
電話上二〇二一番
振替口座大阪一五五一〇番
製造場　府下鷲峰山麓



京都染物同業組合月報
第二百六十九號
發行兼編輯人　新野貫慈
印刷人　森本理一郎
京都市柳馬場通竹屋町下ル
發行所　京都染物同業組合事務所
電話上一六七七番

## 公示

### ◆公示第三號

本組合代議員任期滿了ニ付改選ノ結果各部當選者ハ左ノ通確定致候此段公示ス

昭和六年二月二十五日

組長　八木伊三郎

友仙染部　八木伊三郎
〃　松岡傳太郎
〃　岡本作太郎
〃　長澤與太郎（新任）
〃　山本為三郎（〃）
模樣染部　田中為次郎
〃　上野治三郎（新任）
茶染部　北村市三郎（〃）
〃　原田三郎
紅染部　鈴木治兵衛（新任）
藍色染部　永井與太郎（〃）
〃　永井吹二郎
引染部　八木喜作
毛斯綸染部　大島孝次郎
正絹染部　伊藤定三郎
小紋染部　其銅政正（新任）
〃　兒玉勘六
〃　遠田藤三郎（新任）
印染部　佐竹藤之助（〃）
機械染部　青木平次郎
中形染部　中島勘助
張物部　横江善次郎
〃　川崎琴之助
張物部　壮恒三郎（新任）
灰汁附部　古川茂吉
絡糸再整部　北島定次郎（新任）
御召再整部　山内信良（〃）
紋上繪部　佐々木嘉助
〃　井深英之助
湯熨斗部　寺井長次郎（新任）
〃　北村市次郎
〃　三輪伊兵衛
形彫部　宮原彌助（新任）
形彫部　兒玉米次郎（〃）
糊置部　芝竹次郎
〃　辻村爲次郎
〃　堀部德三郎（新任）
糸絹色染部　池田伊三郎
〃　杉原彌三郎（新任）
練物部　伊藤外男（〃）
糸練部　岡本清三郎（〃）
洗色拔部　青木勘次郎（〃）
浸落調整部　井上兵太郎
〃　八木市次郎
〃　小倉定太郎（新任）
縮緬部　藤田庄吉
晒白部　安村長造
藍染部　下村市太郎

### ◆公示第四號

任期滿了ノ處選擧就任シタル正副部長左ノ通リニ付此旨公示ス

昭和六年二月廿五日

京都染物同業組合
組長　八木伊三郎

紋上繪部長　佐々木嘉助
同　副部長　田中仁一郎
洗色拔部長　村田定七
同　副部長　永井源治
紅染部長　湯淺晋七
同　副部長　三輪六藏
練物部長　杉本德次郎
同　副部長　中西榮太郎
藍色染部長　田中常太郎
同　副部長　山本菊之助
御召再整部長　山口久三郎
同　副部長　佐々木慶太郎
糸絹色染部長　杉原彌三郎
同　副部長　中村喜三郎
浸落部長　井上兵太郎
同　副部長　八木市次郎
友仙染部長　古野藤藏
同　副部長　福谷傳吉
高橋長三郎　堀井德之丞
○糸絹色染部役員氏名

会　計　小倉芳之助
代議員（十二名）
北口巳之助　藤本金藏
大久保與惣吉　森市藏
富部儀作司　杉原藤四郎
小谷源吉　中島吉次郎
○紋上繪部役員氏名

会　計　笠浪猪之助
代議員（十五名）
岡本定吉　村上嘉次郎
竹村雄吉　川勝藤次郎
羽田元三郎　勝木幸次郎
鵜野彌三郎　前田万次郎
熊野忠次郎　井深英太郎
古田新太郎
荒川德治
村上政次郎
上杉俊作
田中定次郎

## 雜錄

### ◎各部役員異動

部長改選に伴ひ部役員の改選を行ひたる部にして當選の判明せしもの左の通り其部より報告せり

○御召再整部役員氏名

会　計　井上金次郎
代議員（八名）
山内信良　福田外次郎　福田卯吉
友仙染部員杉山藤市弟
〃　杉山榮市
〃　二之湯研一
〃　川瀨孝次
〃　杉山吾市
〃　武田順次
〃　近藤重員
張物部員　中村久次郎
浸落部員　東原利三郎
友仙染部員小林利一
〃　奥村與之松
〃　
〃　
〃　

金四圓貳拾七錢　前年繰越金
支出ノ部　支出總額
一金百四拾八圓貳拾七錢
内　譯
金拾圓　通信費
金五圓　文具費
金五圓　集金費
金貳拾圓　事務費
金貳拾圓　印刷費
金七拾圓　諸會議費
金拾八圓貳拾七錢　雜費

賦課徴收法

一等　一ヶ年　六圓　五戸
二等　〃　四圓　六戸
三等　〃　參圓　十一戸
四等　〃　貳圓　九戸
五等　〃　壹圓　三十九戸

右上半期、下半期ノ二分トシ隨時徴收ス

昭和六年二月
部長　山内信良

昭和五年度湯熨斗部收支決算

收入ノ部
一金貳百〇參圓七拾參錢　總收入高
内　譯
金百九拾六圓貳拾錢　部經費收入高
金七圓五拾參錢　前年度繰越高
支出ノ部
一金貳百〇參圓七拾參錢　總支出高
内　譯
金五拾七圓六拾錢　會議費
金參拾五圓四拾八錢　事務費
金拾圓也　慶弔費
金拾八圓也　印刷費
金九圓貳拾五錢　通信費
金參拾五圓也　部員標記料
金拾四圓四拾錢　雜費
金貳拾四圓也　現在金繰越

昭和六年度湯熨斗部經費收支豫算

收入ノ部
一金貳百〇參圓七拾參錢　總收入高
内　譯
金百九拾六圓貳拾錢　部經費收入高
金七圓五拾參錢　前年度繰越高
支出ノ部
一金貳百〇參圓七拾參錢　總支出高
内　譯
金五拾七圓六拾錢　會議費
金參拾五圓四拾八錢　事務費
金拾圓也　慶弔費
金拾八圓也　印刷費
金九圓貳拾五錢　通信費
金參拾五圓也　部員標記料
金拾四圓四拾錢　雜費
金貳拾四圓也　現在金繰越

金貳百五圓貳拾錢　部經費徴收高
金貳拾四圓也　前年度繰越
支出　部
一金貳百貳拾九圓貳拾錢　總支出高
内　譯
金六拾圓也　會議費
金貳拾圓也　通信費
金參拾圓也　事務費
金貳拾圓也　慶弔費
金貳拾五圓也　印刷費
金參拾四圓貳拾錢　雜費
金四拾圓也　豫備費

賦課徴收法

金六拾貳圓四拾錢
一　等　廿六戸　一戸年額　金貳圓四拾錢
金六拾圓也
二　等　五十戸　〃　金壹圓貳拾錢
金八拾貳圓八拾錢
三　等　百卅八戸　〃　金六拾錢
計金貳百五圓貳拾錢　二百十四戸

備考
一、二、三等々區別ハ昭和六年度染物同業組合ノ等級ヲ標準トシ經費ハ上、下半期ノ二期ニ區分シ徴收ス

昭和六年二月
湯熨斗部々長　北村市次郎

昭和五年度形彫部經費收支決算報告

收入ノ部
一金參百參拾五圓四拾參錢　總收入高
内　譯
金貳百貳拾五圓也　部經費
金九拾五圓也　競技會ニ對スル組合及會議所補助金
金拾五圓四拾參錢　前年度繰越金
支出ノ部
一金參百參拾五圓四拾參錢　總支出高
内　譯
金百貳拾九圓拾五錢　競技會費
金拾六圓五拾錢　會議費
金拾六圓五拾錢　寄贈品代
金四圓貳拾參錢　通信費
金貳圓六拾錢　印刷費
金八圓貳拾六錢　雜費

金貳百貳拾九圓貳拾錢　總收入高
内　譯
金八圓也　慶弔費
金壹圓也　諸給費
金百貳拾壹圓貳拾九錢　雜費
金百貳拾壹圓貳拾九錢　現在金

昭和六年度形彫部經費收支豫算

收入ノ部
一金四百參拾四圓八拾九錢　總收入高
内　譯
金貳百拾八圓六拾錢　部經費
金九拾五圓也　競技會ニ對スル組合及會議所補助金
金百貳拾壹圓貳拾九錢　前年度繰越
支出ノ部
一金四百參拾四圓八拾九錢　總支出高
内　譯
金參百貳拾圓也　競技會費
金四拾圓也　會議費
金貳拾圓也　通信費
金拾圓也　印刷費
金拾圓也　備品代
金貳拾圓也　事務費
金拾四圓八拾九錢　雜費

賦課徴收法（年額）

一等　金四圓也　十戸　金四拾圓也
二等　金參圓也　〃　金參拾圓也
三等　金貳圓四拾錢　十七戸　金四拾圓八拾錢
四等　金壹圓八拾錢　十六戸　金貳拾八圓八拾錢
五等　金壹圓四拾錢　二十戸　金貳拾八圓也
六等　金壹圓也　二十四戸　金貳拾四圓也
七等　金六拾錢　四十五戸　金貳拾七圓也
計　百四十二戸　金貳百拾八圓六拾錢也

經費ハ年額ヲ二分シ上半期下半期ノ二期ニ徴收ス

昭和六年二月
形彫部長　三輪彌三郎

昭和五年度糸絽色染部經費收支決算

收入ノ部
一金參百四拾貳圓四拾錢　經費徴收總額
一金貳百五拾圓四拾八錢　前年度繰越金
合計金五百九拾貳圓八拾八錢
支出ノ部

一金壹百參拾四圓〇八錢　勧業費
一金拾圓參拾錢　印刷費
一金拾六圓也　會議費
一金拾圓拾四錢　通信費
一金參拾圓也　事務費
一金七圓也　雜費
計金貳百〇七圓五拾貳錢
差引金參百八拾五圓八拾六錢

昭和六年度糸絽色染部經費收支豫算

收入ノ部
一金參百八拾五圓八拾錢　等級割
一金參拾圓四拾錢　戸別割
計金四百拾六圓貳拾錢
一金參百八拾五圓參拾六錢　本年度徴收總額
合計金八百〇壹圓五拾六錢　前年度繰越金
支出ノ部
一金參百貳拾圓也　勧業費
一金貳百五拾圓也　會議費
一金參拾圓也　書記給
一金五拾圓也　印刷費
一金四拾圓也　通信費
一金參拾五圓也　事務費
一金七拾六圓五拾六錢　豫備費
合計金八百〇壹圓五拾六錢

賦課等級割左ノ通

一金四拾參圓四拾錢　一等戸　七名
一金五拾圓四拾錢　二等戸　十二名
一金九拾七圓貳拾錢　三等戸　二十七名
一金九拾九圓也　四等戸　三十三名
一金四拾八圓也　五等戸　二十名
一金貳拾五圓六拾錢　六等戸　十六名
一金貳拾貳圓貳拾錢　七等戸　三十七名

昭和六年二月
糸絽色染部　杉原彌三郎

## ◎京染宣傳後援會組織

京染を宣傳し廣く内外各地に販路を開拓するは本業に關係ある商工業者共同の事業として之を遂行するは當然なるが之れ迄は單に京都見本市或は各商店の個しに係る販賣會に依て宣傳せられたるに止まるが弊年よりは染物業者等に於ても京染の



業者とする地域發展の上に於て急實を統くるものなりとし其經費の一部を負擔する方針を立て篤志者の寄附を仰ぎたるに忽ち貳千圓の集金を得て京都四大商店及參加五十三店の催ふしに係る宣傳會に寄贈し大に良好の結果を得へ爾來商工業者間の親密を加へ取引上圓滑なる傾きを生じたり本年度に於ても各種の宣傳會を開催せらるべく計畫あるのみならず各大商店の交渉もあも事ゆへ之を賛同すること依書を差げられ取り敢へず後援會を組織し直接間接に京染のために貢献するを目的とし製造業者十七名の團体組織確立し福井繁太郎氏選出されて會長となり總ての會務を處理し、別に染工業者のみの各商店と取引せる重もなる人々の賛成を求め京染宣傳後援會を組織することゝし去る二月八日京都ホテルに於て發會式を挙行役員の選擧をなしたるに會長に八木伊三郎副會長に横江善次郎の兩氏顧問に吉居佐助福井繁太郎河氏を幹事に野々口初太郎植村要三郎北村平三郎山本秀三郎松岡健太郎長澤英太郎福岡一泉の諸氏規則は左の通り制定せり

會　則

第一條　本會ハ京染宣傳後援會ト稱ス
第二條　本會ハ京染宣傳後援ヲ目的トシ業者相互間ノ親睦ヲ圖リ兼テ併ヲ問屋及會員相互間ノ連絡ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第三條　本會ノ事務所ハ京都市内同業組合事務所内ニ置ク
第四條　本會ノ總費ハ會員ノ賛成シ入會申込ヲ爲シタルモノヲ以テ會員トス
第五條　本會ノ會費ハ組合ノ決ヲ經テ之ヲ定ム
第六條　本會ノ經費ハ會員ノ負擔スル會費及寄附金ヲ以テ之ニ充ル
第七條　本會ニ左役員ヲ置キ會員中ヨリ之ヲ選出ス

會　長　一人
顧問長　一人
幹　事　若干名（内一名ヲ會計役トス）
役員ノ任期ハ二ヶ年トス
第八條　本會ニ顧問ヲ置ク

幹事會ノ議決ニ依リ之ヲ執行ス
第十條　總會ハ毎年一月之ヲ開キ決算ノ報告并ニ重要會務ヲ審議ス
第十一條　會長ハ會務處理ノ爲ノ理事及書記ヲ囑託シ又ハ任命スルコトヲ得
第十二條　其他會務ニ關スル細目ハ幹事會ニ於テ之ヲ定ム

## ◎毛斯綸部諸會合

同部は時況問題に關し之れが對策を講ずるため再三集議する處ありしが其經過の概略左の如し

二月三日午後一時京都染物同業組合に於て大阪との聯合委員會を開く出席者大阪側委員笹部桑吉、安田申平、奈良本和吉、田中巳之助、杉本鄭三、田中要三、辻田由松、森孫四郎、里見淺太郎、健平末蔵、岡島相談役。京都側委員村井乙次郎、上治仲蔵、後藤繁蔵、三横孝作、高橋徳次郎、長井末次郎、飯田牛之助、梶山立之助酒井柳太郎、赤坂代表井上文七、中川元次郎、三品清三郎の諸氏と會合し一議案捺染七柄の内兩面に完成せる四柄の陳列會開催の承認を求められたる市田商店に對し賛否を與ふること

決　議

一完成品四柄兩面染の（マーク）を附して陳列をなすこと同意なるも不揃品に對しては色ぬきの出來る者は再製をなし色ぬき出來ざるものは故障を生ぜざる樣販賣上に對し考慮を求め置くこと其他山科鐘紡分工場參觀をなさんとするに付き來る十日午前十時山科驛に集合の豫定尚は市田商店に對し友禪模樣又は友禪模樣化したるものは染入れざる事の承認を求め該係長石川氏承認す

昭和六年二月十日午前十時山科驛集合工場參觀をなす出席者氏名左の如し

大阪側委員笹部桑吉、安田申平、奈良本和吉、田中巳之助、田中要三、辻田由松、森孫四郎、高橋玄三郎、里見淺太郎、岡島相談役、堀定治　京都側委員村井乙次郎、上治仲蔵、後藤繁蔵、長井末次郎、井上太三郎、三横孝作、後藤繁蔵、長井末次郎、三品清三郎、中川元次郎、中川文七、山田常吉、高橋徳次郎、小川忠四郎、西村樣太郎、飯田牛之助、小川忠四郎

神戸昭和組信會、石野商店本店、石野正直商店、横村商店松村早雄商店、林徳太郎商店、双葉商店、トミー組商店、合資會社豊田商店千葉商店、株式會社高島屋商店、成瀬嘉商店桝本商店、森幸商店、杉田太作商店、杉本商店、角照之商店

右業者と會見の結果左の條項を決議せり

一檢出品染値段は現在取引額の二割乃至三割上の申込みに同意す

一意匠保護協會規約を承認すると同時に加入す

一京阪神聯合會を承認すると同時に加入す

一染代協定を承認するも東京横濱方面の交渉不成立の際は承認條項は取消す事

長澤石氏の業務に各染工場を巡視し最後水井工場長と懇談し我等聯合會の希望を入れ今後は友禪模樣又は友禪模樣化したるものゝ外兩面鐘紡銘仙も充分研究の上手染業者の迷惑にならざる樣承認を受けたり

昭和六年二月二十日午前十時京都工場側は一統京都染物同業組合事務所に集合し大阪工場側は大阪東區松屋町實業倶樂部に各集合し京都問屋訪問の打合をなし

大阪側より安田申平、奈良本和吉、田中巳之助京都側より村井乙次郎、三品清三郎、赤阪代表井上文七、大阪問屋訪問委員出席者氏名

京都側より三横孝作、高橋徳次郎、小川忠四郎中川元次郎、大阪側より笹部桑吉、森孫四郎、辻田由松、田中要三、高橋玄三郎、書記堀定治

交渉要點は不二組控染防止の爲京阪各問屋を訪問して同業者保護のため該品の染出しは無期限中止方を懇請し其承認と諾否を求めたるに

一京都側問屋は中止することを承認す

一大阪側問屋も亦中止することを承認す

昭和六年二月二十一日午後一時京阪神聯合委員會を神戸市経會議事堂に於て聯合委員會を開く

大阪側委員笹部豊蔵、杉本鄭三、關谷松次郎仁科恭助、堀定治

京都側委員上治仲蔵、後藤繁蔵、棚橋豊作、山邊伊一郎、岡本健三郎、井上太三郎、井上文七、山田常吉、高橋徳次郎、長井末次郎、西村樣太郎、飯田牛之助、小川忠四郎

神戸昭和組信會、石野商店本店、石野正直商店、横村商店松村早雄商店、林徳太郎商店、双葉商店、トミー組商店、合資會社豊田商店千葉商店、株式會社高島屋商店、成瀬嘉商店桝本商店、森幸商店、杉田太作商店、杉本商店、角照之商店

右業者と會見の結果左の條項を決議せり

一檢出品染値段は現在取引額の二割乃至三割上の申込みに同意す

一意匠保護協會規約を承認すると同時に加入す

一京阪神聯合會を承認すると同時に加入す

一染代協定を承認するも東京横濱方面の交渉不成立の際は承認條項は取消す事

以上の通　承認及び申合事項を締結す

昭和六年二月二十五日午前九時開會せしに出席者氏名左の通り

上治仲蔵、棚橋豊作、松本岩松、下村勇吉、菱田源三、後藤繁蔵、林又造、武田合資會社久米合資會社、大良幸次郎、山邊伊一郎、關口肥後、後藤貞三、後藤開次郎、岡本健三郎小島合資會社、佐藤歓一、山田吉太郎、岡田富蔵、三横孝作、谷本岩太郎、中川元次郎、三品清太郎、土田徳三、赤阪合資會社、荒木長次、山田常吉、倉井勝吉、八木雄二郎、酒井柳太郎、黒川合資會社、高橋徳次郎、長井末次郎、松村熊蔵、市田株式會社、宮田信二郎、梶原友仙工場、西村樣太郎、梶山立之助村井乙次郎、馬場善蔵、芝村久次郎、鷲野友仙工場、丹羽新三郎、稲垣政次郎、神尾幸太郎、北村末次郎、村瀬其吉、松葉儀太郎、白井光造

當日大阪より出張列席せられたるは笹部桑吉、松本鄭三、荒巻豊蔵、堀定治の以上五十四名にして

一不士絽捺染防止交渉其後の經過に付報告

二檢出物加工賃協定並に意匠保護協會承認等を神戸同盟係者と交渉せし經過報告

議　案

一不士絽捺染防止運動を此儘中止するや經續するやや

一東京横濱方面の交渉のため出張するに付き其經費の産出の方法如何にすべきや

一出張經費は各工場毎に板割とし馬一面に對し（金拾錢也）徴收すること（實行は三月より始め當分の間とす）但し第一回分に限り寄附とし金貳拾錢也徴收す

一交織又は絹布に類せし捺染に對しては極力防止方交渉を經續すること

一毛斯綸部會計決算報告は毎年一回四月中頃に部總會を開催して報告すること

一東京横濱出張交渉委員は京阪にて六名但し主事一名隨行すること

出張委員は左の通り

© Kyozomekai

京都側柳吾作、山邊伊一郎、村井乙次郎、主事小川忠四郎

大阪側荒巻豊蔵、杉本鶴三、筆部栄吉

一各出張委員に先だち主事小川忠四郎を關西側代表として派遣すること

一毛斯綸部々長は補缺選擧に際し副部長村井乙次郎氏を推薦すること

一輸出物加工業者は來る三月二日午前十時より釜座事務所に會合して各輸出加工品取扱者たるブローカーを訪問して承認さすこと

但し方法は神戸と同じ其諾否を聯合會に報告すること

右の外京阪神聯合會規則は左の通り

## 京阪神友禪染同業聯合會々則

第一條　本會ハ京阪神聯合會ト稱シ事務所ヲ大阪府及京都府ノ各同業組合事務所内ニ置ク

第二條　本會ハ京都府及大阪府兵庫縣高岡市ノ各々都下ニ於ケル板上友禪染加工ノ進歩發展及保護ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ京都府大阪府兵庫縣高岡市ノ各都下ニ於ケル友禪染同業組合員ヲ以テ組織ス

前項ノ外本會ニ加入セントスルモノハ入會金五圓也ヲ添ヘ事務所ニ申出フルコト

本會ヲ退會セントスルトキハ理由ヲ附シ事務所ニ届出ラルヘシ

但シ入會金ハ之レヲ返戻セス

第四條　本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、染色上ノ調査研究及保護

一、不二相及人絹交織物ノ機械捺染防止ニ關スル件

一、染色意匠保護ニ關スル調査研究

一、實地見學

一、其他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事項

第五條　本會ニハ業種別ニ依テ左ノ二部ヲ設ク

一、内地部

一、外國部

第六條　本會ニハ各々所屬組合ヨリノ選擧ニ依ル左ノ役員ヲ置ク

一、理事長　二名

一、理事　若干名

一、會計　二名

第七條　本會ヲ代表シ理事ノ會務ヲ理事長之レニ充ツ

理事ノ任期ハ一ケ年トス

但シ再選ヲ妨ス

第八條　總會ハ毎年春季ニ行ヒ理事會ハ例會ト定メ月一回京阪交互ニ其地ニ於テ開催スルモノトス

理事會ニ於テ必要ヲ認メタル時ハ臨時會ヲ開クコトヲ得

但シ臨時會合ノ多キ場合ハ例會ヲ省クコトアルヘシ

第九條　本會役員ハ名譽職トス

但シ會務上必要ナル實費ハ之レヲ給スルコトヲ得

第十條　本會ノ經費ハ各々其地ノ組合ヨリ一定金額ヲ支持シ之レニヨリ支辨ス

會計年度ハ毎春季ノ總會時ニヨルモノトス

但シ新入會者ヨリ徴收スヘキ入會金ハ本項經費ニ編入ス

附則

本會ノ決議事項ハ多數決ニ依ルコト

但シ可否同數ナルトキハ各理事長ノ裁決ニ任ス

賀易業者ノ一商店ニ對スル毎月ノ負擔ハ金參圓宛徴收スルモノトス

高岡同業者ハ毎月機械一台ニ付キ金拾五錢宛ヲ徴收スルモノトス

## 試驗場記事

### 交織物染色法

京都市染織試驗場　森　弘

前述した如き方法でセラニースを染色した後木綿又はヴイスコース人造絹糸をセラニースを汚染しない染料で染色して異色染を得るもので直接染料中からセラニースを汚染しない染料を選擇する。

試驗の結果セラニースを汚染しない染料には次の如きものがある。

黄色　ダイアミン　ファスト　エローAR　獨染
　　ダイレクト　エロー　S　サンドニー　獨染

橙色　サン　エロー　3GC　ガイギー
　　〃　〃　GG　〃　サンズ
　　ナフタミン　〃　GG　〃
　　〃　〃　GF　GNF　獨染
　　レノール　〃　R　〃
　　ナフタミン　ビューア　エロー　G　〃
　　ミモサ　Z　〃
　　クロラミン　エロー　G　ガイギー
　　ダイアミン　ファスト　エロー　FF　獨染
　　オキシ　ダイアニール　〃　GO　〃
　　ピラミン　エロー　G　〃
　　〃　〃　GX　〃
　　クリソフエニン　各社
　　レリアス　エロー　獨染
　　ダイアミン　ファスト　オレンヂ　ER　獨染
　　クロラミン　オレンヂ　G　〃
　　イリイ　ファスト　オレンヂ　CG　ナショナル
　　イリイ　〃　〃　R　アニリン
　　ポリフエニール　〃　R　ガイギー
　　ナフタミン　〃　2R　獨染

赤色　ダイアミン　スカーレット　B　各種
　　〃　〃　B　〃
　　イリイ　〃　B　ナショナル
　　クロラミン　〃　B　アニリン
　　ポンタミン　〃　B　サンズ
　　ダイレクト　〃　B　デユーポン
　　ダイアニール　ポンソー　G　日本染料
　　クロラミン　〃　G　獨染
　　〃　〃　B　〃
　　〃　〃　4B　〃
　　〃　〃　ピンク　B　〃
　　〃　〃　B　〃
　　〃　〃　G　〃
　　〃　〃　B　〃
　　〃　〃　B　〃
　　〃　〃　B

ハ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前項第三號ニ掲ケタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ組合員ノ有スヘキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得又但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第十八條　組合員ノ責任ハ第五條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度トス

第十九條　組合ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事カ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル請求アリタル後二週間内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得

第二十條　工業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ設立同意者ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ組合員又ハ設立同意者ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十一條　組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ出資口數ニ應シ二個以上ノ議決權ヲ有セシムコトヲ得

第二十二條　經費ノ一部ヲ組合員ニ分賦スル工業組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

前項ノ總會ノ議決ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　組合員タル資格ヲ有スル者工業組合ニ加入セントスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定期間前ニ組合ノ承諾ヲ得タル場合ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

コトヲ得

第二十五條　檢査ヲ行フ工業組合ニ在リテハ檢査員ヲ置クヘシ

檢査員ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條　工業組合ハ檢査員ノ服務ニ關スル規定ヲ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　行政官廳必要ト認ムルトキハ檢査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　行政官廳必要ト認ムルトキハ工業組合ニ對シ經費ノ收支豫算其ノ分賦收入方法又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十九條　工業組合聯合會ハ同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得聯合會ハ工業組合又ハ工業組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

聯合會ハ法人トス

第三十條　工業組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任セラルル創立委員ヲ以テ創立委員ヲ置クヘシ

創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第十四條ノ規定ハ創立委員ニ付之ヲ準用ス

第三十二條　工業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

特別ノ事由アルトキハ理事ハ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　工業組合ニ關スル規定ハ第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外工業組合聯合會ニ付之ヲ準用ス但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合聯合會及組合員トス

第三十四條　設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ創立委員會ノ決議錄、出資ノ總口數ノ出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面出資ノ金額及組合員トアルハ所屬ノ組合聯合會及組合員トス

第三十四條　設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ創立委員會ノ決議錄、出資ノ總口數ノ出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十五條　事務所ノ新設移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リ之ヲ爲シ但シ合併又ハ分割ニ因リ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スヘシ

事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人カ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

出資一口ノ金額減少ノ登記申請書ニハ前項ニ規定スル書面ノ外本法ニヨリ催告ヲ爲シタルコトヲ及異議ヲ述ヘタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨済ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十六條　解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ付之ヲ準用ス

工業組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ行政官廳ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第三十七條　清算結了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スヘシ

第三十八條　民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條、第七十三條、第七十四條及第七十八條乃至第八條、非訟事件手續法第百三十一條、第百三十八條、第百四十一條乃至第百四十四條乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十八條、第百六十五條、第百七十五條、第百七十六條、七十及第百八條並產業組合法第五條、第六條、第十條、第十一條第一項、第十二條、第十四條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條乃至第三十七條第二條ノ三、第三十八乃至第四十一條、第四十三條乃至第五十一條、第五十一條乃至第五十六條、第六十條乃至第六十二條（第一項第號ヲ除ク）第六十一條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第七十條乃至第七十三條ノ三、第七十四條第一項、第七十八條、第九十六條第九十七條及第百四條ノ規定ハ工業組合ニ付第百四十五條第三項及第百四十八條第一項中一週間トアルハ之ヲ二週間トス長官又ハ監事

第三十九條　左ノ場合ニ於テハ工業組合ノ理事監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

一　本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二　本法ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三　行政官廳又ハ總代會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四　本法ニ依リ行政官廳ノ檢査ヲ拒ミ又ハ其ノ檢査ヲ妨ケタルトキ

五　本法ニ依ル總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

六　本法ニ依リテ私所ニ備置クヘキ書類ヲ備ヘサルトキ又ハ其ノ書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セサリシトキ、不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覽ヲ拒ミタルトキ

七　本法ニ違反シテ組合員ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

八　本法ニ違ハシメ組合カ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ買戻ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

九　本法ニ違反シテ破產ノ宣告ヲ請求セサルトキ

十　本法ニ違シ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ組合ニ合併ヲ爲シタルトキ

十一　本法ニ依ル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十二　清算人ハ組合ノ債務ヲ本法ニ違反シテ辨済ヲ爲シ又ハ組合財產ノ分配ヲ爲シタルトキ

十三　法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十四　組合ノ目的ニ非サル營利事業ヲ爲シタルトキ

第四十條　第八條ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十條　第八條ノ二ノ組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱住所及保證金額

第十八條ノ二　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノトス

第二十條第三項中「理事」ヲ「理事又ハ監事」ニ改ム

第二十一條中「十分ノ一」ヲ「十分ノ三」ニ改ム

第二十八條ノ二　組合ノ事業若ハ組合財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　總會ノ決議ノ取消

二　役員又ハ清算人ノ解任

三　組合ノ事業停止

四　組合ノ解散

第二十九條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ特別ノ事由アルトキハ組合聯合會又ハ其ノ組織スルコトヲ得

第三十條中「所屬ノ各組合及聯合會」ヲ「所屬ノ各組合、聯合會及工業者」ニ改ム

第三十二條中「所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事」ヲ「所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事若ハ工業者」ニ、同條第二項中「理事若ハ監事又ハ所屬ノ工業者」ニ、同條第三項中「理事若ハ監事」ヲ「理事又ハ監事」ニ改ム

第三十三條但書中「所屬ノ組合、聯合會及組合員」ヲ「所屬ノ組合聯合會、工業者及組合員」ニ改ム

第三十五條第一項但書中「出資一口ノ金額減少」ヲ「出資一口ノ金額ノ減少若ハ第十八條ノ二ノ規定ニ依ル組合員ノ責任ノ減少」ニ、同條第三項中「出資一口ノ金額減少」ヲ「出資一口ノ金額ノ減少又ハ第十八條ノ二ノ規定ニ依ル組合員ノ責任ノ減少」ニ改ム

第三十八條中「第百三十八條ノ二」ヲ「第百三十八條ノ三」ニ、「第三十八條ノ二乃至第四十一條」ヲ「第三十八條ノ二乃至第四十三條乃至第四十六條」ニ、「第五十一條乃至第五十六條」ヲ「第五十一條乃至第五十七條」ニ、「第六十條、第六十一條、第六十二條」ヲ「第六十條、第六十一條、第六十二條」ニ改ム

第三十九條第十號ヲ左ノ如ク改ム

十　本法ニ違反シタル出資一口ノ金額ヲ減少シ

第十八條ノ二ノ規定ニ依ル組合員ノ責任ヲ減少シ、第三十八條ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和六年四月法律六十二參照

重要檢出品工業組合法中左ノ如ク改正ス

重要檢出品工業組合法ヲ重要工業品組合法ニ改ム

第一條　中重要檢出品ヲ重要工業品ニ改ム

第三條　工業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一　組合員ノ製品其原若ハ料又ハ製造若クハ加工ノ設備ニ對スル資其他必要ナル取締又ハ事業經營ニ關スル制限

二　組合員ノ製品ノ加工又ハ販賣組合員ノ營業ニ必要ナル物品ノ供給其他同設備ノ設置其ノ他組合員ノ營業ニ關シ調査、研究、調査

三　組合員ノ營業ニ關シ指導、研究、調査

其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ前項ノ事業ノ外和ノ目ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲ケタル以外ノ事業ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限リ組合員ニ非サル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第六條ノ二　工業組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ事業經營ニ對スル制限ヲ行フ場合ニ於テハ之ニ關スル規程ヲ設定シ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ其ノ規程ヲ變更シタルトキモ亦タリトス

第七條及第八條中「營業上ノ弊害」ヲ「營業上ノ弊害ヲ豫防シ又ハ矯正スル爲」ニ改ム

第九條中「工業組合」ヲ「重要檢出品ニ關スル工業組合」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ重要檢出品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第十六條第二項中第四號ヲ第五號トシ第五號ヲ第六號トシ第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四　第十八條ノ二ノ組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱住所及保證金額

第十八條ノ二　工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノトス

第二十條第三項中「理事」ヲ「理事又ハ監事」ニ改ム

第二十一條中「十分ノ一」ヲ「十分ノ三」ニ改ム

第二十八條ノ二　組合ノ事業若ハ組合財產ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲ガ法令、定款若ハ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　總會ノ決議ノ取消

二　役員又ハ清算人ノ解任

三　組合ノ事業停止

四　組合ノ解散

第二十九條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ特別ノ事由アルトキハ組合聯合會又ハ其ノ組織スルコトヲ得

第三十條中「所屬ノ各組合及聯合會」ヲ「所屬ノ各組合、聯合會及工業者」ニ改ム

第三十二條中「所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事」ヲ「所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事若ハ工業者」ニ、同條第二項中「理事若ハ監事又ハ所屬ノ工業者」ニ、同條第三項中「理事若ハ監事」ヲ「理事又ハ監事」ニ改ム

第三十三條但書中「所屬ノ組合、聯合會及組合員」ヲ「所屬ノ組合聯合會、工業者及組合員」ニ改ム

第三十五條第一項但書中「出資一口ノ金額減少」ヲ「出資一口ノ金額ノ減少若ハ第十八條ノ二ノ規定ニ依ル組合員ノ責任ノ減少」ニ、同條第三項中「出資一口ノ金額減少」ヲ「出資一口ノ金額ノ減少又ハ第十八條ノ二ノ規定ニ依ル組合員ノ責任ノ減少」ニ改ム

第三十八條中「第百三十八條ノ二」ヲ「第百三十八條ノ三」ニ、「第三十八條ノ二乃至第四十一條」ヲ「第三十八條ノ二乃至第四十三條」ニ、「第五十一條乃至第五十六條」ヲ「第五十一條乃至第五十七條」ニ、「第六十條、第六十一條、第六十二條」ヲ「第六十條、第六十一條、第六十二條」ニ、「第六十七條」ヲ「第六十七條、第六十八條」ニ、「第七十四條ノ二第一項」ヲ「第七十四條ノ二第一項、第七十七條第三項」ニ改ム

昭和六年二月

## ◎染織祭の組織

由來京都の重要物產と云へば染織を以て主位に置かざるべからず既に平安遷都以來之に依て產業を營む人民にして之れが神祖を思はざるは心なき甚だしきものとして我が國に於テモ原始時代に既ニ其ノ道ノ開ケタリシハ想像ニ難カラザル所ニシテ其後歷世文化ノ影響ト洗練陶冶トヲ經テ漸次發達ノ域ニ進ミ殊ニ近代科學ノ進歩ハ機械ノ應用ヲ促進シ以テ今日ノ隆盛ヲ見ルニ至レリ染織業ハ今ヤ我國產業ノ權位ヲ占メ其消長ハ國家及國民經濟上極メテ重大ナル關係ヲ有スルコトハ多言ヲ要セサル所ナリ抑モ斯業ノ淵源ハ遠ク神代ノ書ニ發セルハ明カニシテ吾人ハ始メテ染織ノ道ヲ拓キ之ヲ後世萬民ニ傳ヘ給ヒシ染織諸祖神ノ神恩ノ宏大無邊ナルヲ思ハサルヲ得ス殊ニ本府ニ於ケル產業ハ染織及之レニ關聯セル其ノ樞軸ヲ占メ直接及間接之ニ依リ民生活スル者他地方ニ比シ實ニ多大ニシテ前記諸神ノ神恩ニ浴スルノ程度亦一層深シト謂ハサルヘカラス然ルニ由來我京都ニハ四季ヲ通シ各神社ノ盛儀ナル祭事行ハレツヽアリト雖モ未タ府民ニ最モ關係カリシハ織祖神ニ感謝ノ意ヲ捧クヘキ祭祀ニ乏シカリシハ誠ニ識者ノ深ク遺憾トセル所ナリ依ツテ茲ニ有志相諮リ左記規約ニ依リ染織講社ノ設立ヲ發起シ每年陽春ノ季ヲトシ染織祭ヲ行ヒ以テ我國染織諸祖神ノ御神德ヲ宣揚シ其ノ洪恩ノ冥分ノ大方ノ諸賢奮ツテ本講社ノ趣意ニ翼贊加盟セラレ以テ其ノ所期ノ目的ヲ達成セシムル爲協議アランコトヲ

昭和六年二月

### 染織祭祖神

**天棚機姫神**

天衣機女とも稱へ天照皇大神に仕へ大神の神衣を織られ給ふた神である雅仁天皇の御代に伊勢大廟神衣掌司となる天八千々姫はその裔である

**天羽槌雄神**

倭文神建御命とも稱へ出雲神族中特に織布の智識に秀でられたる神にしてシトリ（倭文利）織織の語源をなし模樣織布の始祖である

**天日鷲神**

天ノ庭殖命とも稱へ高皇產靈神の御子天太玉命が天孫降臨の時高千穗宮へ附隨して後その部下の神々を諸州に配置して祭政部典の制が確立した即ち天ノ日鷲神は阿波に首長となつて統べ給ひ麻植へられた麻の始祖神である

**長白羽神**

天ノ日鷲長子のにして麻により織物を造られた神で麻織物（青和幣）の始祖神である

**津咋見神**

天ノ日鷲の神の次子にして諸織物（白和幣）の始祖神である

**保食神**

京都太秦蚕の社の祭神で養蚕の神樣日本神代の卷に現はれてゐるまた名は種產靈神と稱へ養蚕を教へられ繭より製糸の教へられたといふこの神の名は倉稻魂神として廣く知られる稻荷大明神は食稻魂神保倉神である

**栲幡千々姫命**

織姫神社の祭神である

**呉織女**（合祀）

應神天皇の三十七年春二月阿知使主をして縫工女を求めしむ呉王呉織穴織等の四女を貢す四十一年二月阿知使主等婦女を率ゐ攝津武庫港に着した

**漢織女**（合祀）

應神天皇二十年阿知使主歸化す三十七年縫工女を求めしめられ兄媛弟媛呉織漢織等を得て漢織の法傳はつて盛んになつた

本件に關し三月十八日午後四時京都ホテルに於て評議員會を開き之れが賛否に就き諸問し染織祭と稱する以上染物組合として傍觀し去る能はざるは勿論なれば祭禮當日行ふべき方法考案等

© Kyozomekai

を講じ置く必要あるべしとの理由に基く當日出席者

八木組長　廣井繁太郎　清水藤三郎
兩副組長

評議員
田畑房次郎　河合忠次郎　永井政次郎
芝竹次郎　杉本徳次郎　小島彌七
吉本平次郎　安村長蔵　松岡健太郎
森田菊之助　池田伊三郎の諸氏
岡田和厚

梶村万次郎兩組合事務員立會

廣井副組長より染織祭に付ての說明ありて決局京都染物同業組合は賛同するものとし催し物に就ては友仙部に一任することに決定したが同月二十日友仙部幹事松岡健太郎氏より染物組合として賛同するものが參列其他の方法に關し獨り友仙部に一任することは不合理と信ずるに依り一應部長會を召集して其意見を徵せらるべく要求せられたるは理由あるものとして三月廿七日附を以て同廿九日午後一時を期し部長會を召集せり來會者

模様部長　田畑房次郎
友仙部長　松岡健太郎
湯熨斗部長　北村市太郎
形彫部長　三輪彌三郎
引染部長　三浦秀造
機械染部長　菅野松次郎
中形染部長　中島勘助
絞縮部長　松田直吉
印シ染部長　土山藤吉
糸染部長　杉原彌三郎
御召再整部長　山口久三郎
諸色染部長　田中常太郎
練物部長　杉本徳次郎
紅染部長　三輪六造
紋上書部長　佐々木嘉助
浸落部長　井上兵太郎
小紋染部長　山岸好松
灰汁付部長　古川茂吉
抜色部長　村田定七
不參後申込　モスリン部長　村井乙次郎

西田理事集會の主旨を布演し染織祭に關する今日迄の狀況を報告し友仙部の意向を傳へて之を諮りたるに組合として賛同せしものとせば參列の多少を論せず各部より參列せしひることの意見多く各部長は五名づゝ責任を負ふて參列者を募集し服裝は友仙部に於て考案せし意匠を用ゐることゝし之れが準備を委囑することに決定したる於調製費は四円、羽織、着物の三點代約拾圓以内にて各種に應ぜられ候べく必要次の見積りを認め不參部長へ此旨通知し賛否を礒めたり

熱れども參列に戦しての申込少なかりしが申込の確定せるものは三百二十二名友仙部十八名模様染五名引染十七名糸絽染三十八名紋縮染二十七名小紋染二十名毛斯綸七名印シ染八名紅染二名綵縮二名茶染五名機械染二名中形染二名湯熨斗八名形彫五名御召再整八名精練五名紋上書八名浸落調整二名灰汁附五名色抜の各部五百二十一名にして當日左の行進曲を歌ひ行列に參加したり

京染行進曲

染は京染京染物は日本一かや世界一
染織祭染物繁昌
春の錦は柳に櫻四季を彩る染呉服
染織祭染物繁昌
清い流はどこにもあるが外にないぞゑ京の水
染織祭染物繁昌
見よや捺染も友仙もことにきはだつ色と艶
染織祭染物繁昌
色も意匠もそりやよい管よ花の都の染にやもの
染織祭染物繁昌
海の彼方の國々かけて高い譽の都染
染織祭染物繁昌

染織祭に於ける式の順序は左の次第に依り厳肅に行はれたり

第一日の儀　（四月十一日）

一、當日早旦祭場を舗設す
一、午後一時祭主以下參列者着席
次　齋主祭員着席
次　修祓
次　降神　菅掾一同起立
次　神饌を供す
次　祭物を供す
次　齋主祝詞を奏す　一同起立
次　祭主祭文を奏す　一同起立
次　齋主玉串を奉りて拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串を拜して拜禮
次　神饌を撤す　此間奏樂
次　諸員退下
午後十一時　昇神

（神前に於て神賑奉納の豫定）

第二日の儀　（四月十二日）

一、午前九時祭主以下參列者着席
次　齋主祭員着席
次　修祓
次　降神
次　神饌を供す　此間奏樂
次　齋主祝詞を奏す
次　祭主玉串を拜して拜禮
次　齋主玉串を奉りて拜禮
次　齋員拜禮
次　祭主玉串を拜して拜禮
次　神饌を撤す　此間奏樂
次　諸員退下
午後七時昇神

右組合の參列部人員左の通り

一、三百二十二名　友仙染部
一、十八名　模様染部
一、五名　引染部
一、十七名　糸絽染部
一、三十八名　諸色染部
一、二十七名　小紋染部
一、二十名　毛斯綸部
一、七名　印シ染部
一、八名　紅染部
一、二名　綵縮染部
一、一名　茶染部
一、五名　機械染部
一、一名　中形染部
一、二名　湯熨斗部
一、八名　形彫部
一、五名　御召再整部
一、八名　精練部
一、五名　紋上書部
一、八名　浸落調整部
一、一名　灰汁附部
一、五名　抜色部

以上の有志者は十三日雨天なるにも拘はらず各取引商店を訪問し敬意を表し夜分は市内目貫の場所を踊り廻はれり

## ○毛斯綸部

同業者中輸出向き友仙染を主とせるは相國り輸出の一部を設けたる希望なりしも一部を設けるには定款の改正を要するを以て急に其計ひも出來難き事なれば當分毛斯綸部中の一區として假規約を設け之に基き同業者を糾合し更に京阪神は勿論東京横濱と聯絡を通じ同一歩調を取る目的なりとの事にて差當り京都の當業者のみは去る三日午前十時より集議し左の假規約及役員を選擧し報告せられたり

規約

第一條　本會ハ輸出友禪區ト稱ス
第二條　本會ノ事務所ハ京都染物同業組合事務所内ニ置ク
第三條　部員ハ京都染物同業組合員ニシテ輸出友禪ノ加工ナス者ヲ以テ組織ス
第四條　本部ハ部員相互ノ親睦増進ヲ計リ斯業ノ研究ヲナスヲ目的トシ諸般セシメ為ノ定款

第五條　本會ノ事業ハ毛斯綸、砂利ヲ始メ其他ノ毛織物ヲ使用シテ友禪染ヲ施シ輸出スルモノトス
第六條　本部ニ左ノ役員ヲ置ク
部長　一名
副部長　二名
評議員　若干名
書記　一名
會計　一名
役員ノ任期ハ一ケ年トス
部長ハ本部ノ代表シ部ノ事務ヲ所理スル
副部長ハ部長ヲ補佐シ部長ノ事故アルトキハ之ヲ代理ス
評議員ハ部員ヲ代表シ部事務ヲ處理ス
會計ハ部長ノ指揮ヲ受ケ金錢ノ保管出納ノ事務ヲ掌ル
第七條　本部ハ殖産ノ功勞者及ヒ有力ナル商店ヲ顧問ヲ相談役ニ推薦ス
第八條　本部ノ事務ハ支辨スル爲メ部員ヨリ別ニ定ムル方法ニヨリ徴收セシムルヿ
經費ヲ一ヶ月以上滯納スルモノハ役員會ノ決議ヲ之ヲ處分ス
第九條　本部ハ毎年四月一回總會ヲ開キ役員ノ選擧及ヒ一ヶ年事務其他諸般ノ報告ヲナスモノトス
第十條　一役員ハ毎月一回例會ヲ開ク臨時會ハ事項ノ生ジタルトキ部長ノ權限ニ於テ開催スルヿヲ得
第十一條　本部ノ總會ハ部員ノ過半數ノ出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス
一決議ハ出席部員ノ過半數ヲ以テ決定ス
第十二條　本部ハ部員總會ニ於テ出席部員ノ過半數ノ決議ニヨリ變更スルコトヲ得
處分法
第十三條　本部ノ規則及決議事項ニ違反シタル者ハ評議員會ノ決議ヲ以テ左ノ處分ヲナスモノトス
一組合部員除名
一違約金
昭和六年四月三日

部長　井上治三郎　評議員　山邊伊一郎
副部長　北村末次郎　同　鹽谷德松
同　棚橋吾作　同　岡本甚次郎
評議員　西村模太郎　同　三谷正太郎
同　阿部三郎　同　平井吉之助
同　山田常吉　同　平井常吉
井上治三郎
小川長蔵

© Kyozomekai



京都染物同業組合月報

第二百七十一號
發行兼編輯人　新野貞意
印刷人　森木理一郎
京都市堀川通竹屋町下ル
發行所　京都染物同業組合事務所
電話五一六七七番

## 公示

◆公示第七號

左記ノ者雇傭契約ヲ結結シ賃金ノ手續ヲ了シタリ此旨公示ス

昭和六年五月廿五日
京都染物同業組合
組長　八木伊三郎

友仙染部員野村覺太郎徒弟
〃　〃　〃　